



取扱説明書

DuraVision® FDF2712W-IP FDF2312W-IP DX0212-IP ソフトウェアバージョン 6.2

重要

ご使用前には必ずこの取扱説明書およびセットアップマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

-
- 取扱説明書を含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

www.eizo.co.jp

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
- 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
- 4.本製品の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

目次

目次	3	4-11. ライセンスを登録する	28
第1章 製品概要	5	4-12. イベントルールを設定する	29
1-1. 特長	5	4-13. サーバー証明書を登録する	32
1-2. ユーザーレベル	6	4-14. ルート証明書を登録する	32
1-3. システムライセンス	7	4-15. リモコンのIDを設定する	33
第2章 ライブ画面 / 設定画面の表示	8	● 製品側のIDを設定する	33
2-1. ライブ画面を表示する	8	● リモコン側のIDを設定する	33
2-2. 設定画面を表示する	9	4-16. USB機器のホットキーを設定する	34
● モニターコンソールを使う場合	9	4-17. IEEE 802.1X認証を設定する	35
● Webコンソールを使う場合	10	4-18. SNMPを設定する	36
第3章 ライブ画面の操作	11	4-19. IPアドレスフィルターを設定する	37
3-1. ライブ画面のレイアウトを切り替える	11	4-20. フェイルオーバーを設定する	38
● フルスクリーン表示にする	11	● フェイルオーバー設定	38
● レイアウトを切り替える	12	● カメラ登録	38
3-2. ライブ画面の表示ページを切り替える	12	● カメラ機能設定	39
● 手動で切り替える	12	● 表示位置設定	39
● 自動的に切り替える (シーケンス表示)	13	● オーバーレイ設定	39
3-3. 1面レイアウトのフルスクリーン表示に切り替える	13	● プリセット設定	39
3-4. カメラ映像の表示位置を入れ替える	14	4-21. ログを確認する	40
3-5. カメラを操作する	15	4-22. ログを保存する	40
3-6. カメラのSDカードに保存された動画を再生する	17	4-23. 基本情報を確認する	40
第4章 システムの設定	21	4-24. 基本情報を保存する	40
4-1. 基本情報の確認	21	4-25. カメラの接続確認をおこなう	41
4-2. ネットワーク設定をおこなう	22	4-26. ネットワークの接続状態を確認する	41
4-3. 通信設定をおこなう	23	4-27. モニターの表示設定をおこなう	42
4-4. 日付と時刻を設定する	24	4-28. その他の設定をおこなう	42
4-5. 言語を設定する	24	4-29. ストリーミングゲートウェイ機能の設定 (DX0212-IP)	43
4-6. システムを初期化する	25	● ストリーミングゲートウェイ設定	44
4-7. システムを再起動する	25	● 配信設定	45
4-8. ソフトウェアを更新する	26	● エンコード設定	45
4-9. システムの設定情報を保存する	26	第5章 カメラの管理	47
4-10. システムの設定情報を読み込む	27	5-1. カメラを自動検出して登録する	47
		5-2. カメラを手動登録する	48
		5-3. カメラの情報を変更する	52

5-4.	カメラを削除する.....	53	● DX0212-IP	79
5-5.	カメラの情報を読み込む.....	54	8-4. デコード性能.....	80
5-6.	カメラの時刻を設定する.....	54	● FDF2712W-IP / FDF2312W-IP	80
5-7.	配信映像の画質を設定する.....	55	● DX0212-IP	80
5-8.	カメラのプリセット位置を登録する	57	8-5. リモコン仕様.....	82
第 6 章	ライブ画面の設定	58	8-6. カメラ登録用CSVファイル形式	84
6-1.	カメラ映像の表示位置を設定する.....	58	付録	85
6-2.	カメラ映像の表示方法を設定する.....	60	商標	85
6-3.	カスタムスクリーンのレイアウトを設定する	61	ライセンス	86
6-4.	表示するレイアウトアイコンを変更する.....	62		
6-5.	レイアウトのプリセットを設定する.....	63		
6-6.	オーバーレイを設定する.....	65		
6-7.	ライブ画面の表示方法を設定する.....	67		
6-8.	現在のモニター表示の状態を設定する	67		
6-9.	ライブストリーミングを確認する.....	68		
6-10.	ライブ画面のカメラ映像を最新の状態に更新する	68		
6-11.	カメラ映像に関する高度な設定をおこなう ...	69		
第 7 章	ユーザーアカウントの管理	70		
7-1.	ユーザーアカウントを登録する	70		
7-2.	ユーザーアカウントを変更する	71		
7-3.	ユーザーアカウントを削除する	71		
7-4.	自動ログインの設定をおこなう	72		
7-5.	LDAP設定をおこなう	72		
第 8 章	参考	74		
8-1.	オプションアーム取り付け方法 (FDF2712W-IP / FDF2312W-IP)	74		
8-2.	サブモニターを接続する (FDF2712W-IP / FDF2312W-IP)	75		
8-3.	仕様.....	76		
	● FDF2712W-IP	76		
	● FDF2312W-IP	78		

第1章 製品概要

本書では、カメラ（ネットワークカメラ）の設定、システムの設定や仕様について説明します。

1-1. 特長

● カメラとの通信

- 4Kカメラ（3840×2160 / 30 fps）からの映像を受信可能
 - カメラからの映像信号をモニターに表示可能
 - 動画圧縮形式H.265、H.264およびMJPEGに対応しています。
 - 配信方式RTP、MPEG2-TS、SRTに対応しています。
 - 最大48台^{※1}のカメラを登録することができます。
 - 複数のカメラの映像（1面、3面、4面、9面、16面、32面、8面、カスタムスクリーン）を自由にレイアウトできます。
 - ユニキャスト方式およびマルチキャスト方式の通信方式に対応しています。
 - 映像を表示しながらカメラ映像の表示位置を入れ替えることができます。
 - カメラのSDカードに保存されている動画を再生できます。
- ※1 FDF2312W-IPの場合、工場出荷状態（エンタープライズライセンス登録なし）で登録できるカメラ台数は最大16台です。

● ストリーミングゲートウェイ機能（DX0212-IP）

- ライブ画面の映像を配信する「マージモード」
ライブ画面の表示をRTSPまたはSRTプロトコルに変換して配信するモードです。複数のカメラの映像を自由にレイアウトした画面（ライブ画面）をひとつのストリームとして配信するため、ネットワークの負荷を軽減できます。
- 個々のカメラ映像を配信する「リレーモード」
個々のカメラから受信した映像をそのまま加工せずに、RTSPまたはSRTプロトコルで再配信するモードです。カメラ側に配信負荷をかけずにストリームの配信本数を増やせます。

● モニターへの出力が可能

- 別モニターへのFHD出力（1920×1080 / 最大60 fps）に対応（FDF2712W-IP / FDF2312W-IP）
- 4Kモニターへの出力（3840×2160 / 最大60 fps）に対応（DX0212-IPのみ）

● 複数種類のカメラに対応

- ONVIF® Profile Sに対応
- カメラメーカーのプロトコルによるカメラ制御に対応
（パナソニック社/i-PRO社、およびアクシス社製のカメラを接続した場合）
- VMS（Video Management Software）などのストリーミングサーバーから配信された映像ストリーミングを受信可能

● システム管理

- Webブラウザによるカメラの登録やライブ画面の設定が可能
- 設定情報の保存および読み込みが可能
コンピュータに設定を保存し、読み込むことができます。

● イベント連携機能

- ・ イベントルール
特定のイベントをトリガーに、実行するアクションを設定できます。

● 多彩なソフトウェア拡張機能

- ・ アイコンアレンジャー
ライブ画面上のレイアウトメニューの並べ替えや削除が自由にできます。
- ・ ライブストリーミング
本体に表示している画面をWebブラウザ上で確認できます。
- ・ 画面の向き調整
モニターの設置方向（横置き / 縦置き）に合わせて本体出力映像の表示方向を回転できます。
- ・ フェイルオーバー
登録しているカメラとの通信が途切れた際に、予備のカメラに自動で切り替えることができます。
- ・ バーチャルPTZ
カメラにPTZ機能がない場合でも、この製品内部でカメラ映像をデジタル処理することで、PTZ操作ができます。
- ・ スケジュール機能
指定した曜日 / 時間にシステムの電源をオフ / オンするなど、スケジュール設定ができます。

● セキュリティ

- ・ 通信エラー検知
カメラとの通信が途切れた際に、数秒以内にライブ画面上に赤枠のアラートメッセージを表示できます。
- ・ ロック機能
USBデバイス、フロントキー操作、リモコン操作を無効化します。
- ・ ネットワークセキュリティプロトコル
IEEE802.1X、SNMP、LDAPなど高レベルなセキュリティシステムの構築に必要なプロトコルに対応しています。

● セキュア通信に対応

セキュアなプロトコルであるSSL/TLSを採用。カメラおよびWebページとの通信が、SSLで暗号化されます。

また、エンタープライズライセンス（「1-3. システムライセンス」 (P.7) 参照）を購入するとLDAP認証を使用することができます。

● サポート

- ・ 24時間連続使用で2年間の長期保証

● 操作

- ・ USBマウス、USBキーボード、リモコン、またはジョイスティックによるライブ画像の操作が可能

1-2. ユーザーレベル

この製品にアクセスするユーザーアカウントは次の3つのレベルがあります。レベルによって操作できる範囲が異なります。

- ・ ADMIN
- ・ CAMERA CONTROL
- ・ LIVE

それぞれのレベルで操作できる範囲は次のとおりです。

○：操作可、－：操作不可

	ライブ画面					設定画面
	レイアウト切り替え	表示ページ切り替え	カメラ映像の表示位置入れ替え	カメラ操作	プレイバック	
ADMIN	○	○	○	○	○	○
CAMERA CONTROL	○	○	○	○	○	－
LIVE	○	－	－	－	－	－

電源オン時およびログオフ時のユーザーレベルは「LIVE」です。ユーザーレベルの設定については、「[第7章 ユーザーアカウントの管理](#)」(P.70)を参照してください。

本書では、ユーザーレベルの制限がある操作には次のマークを記載しています。

- ・ユーザーレベルが「ADMIN」の場合のみ操作可能

ユーザーレベル「ADMIN」

- ・ユーザーレベルが「ADMIN」または「CAMERA CONTROL」の場合のみ操作可能

ユーザーレベル「ADMIN」または「CAMERA CONTROL」

1-3. システムライセンス

この製品は、有償のシステムライセンスを適用することで使用できる機能があります。システムライセンスの種類は次のとおりです。詳しくは、販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

- ・エンタープライズライセンス
- ・SRT機能拡張ライセンス^{※1}
- ・フェイルオーバー機能拡張ライセンス^{※1}
- ・プレイバック機能拡張ライセンス^{※1}

※1 エンタープライズライセンスが登録されている場合のみ適用できます。FDF2712W-IPとDX0212-IPは工場出荷状態でエンタープライズライセンスが登録されています。

システムライセンスの適用状況はログイン後の設定画面で確認できます（「[2-2. 設定画面を表示する](#)」(P.9)参照）。システムライセンスの登録については「[4-11. ライセンスを登録する](#)」(P.28)を参照してください。

本書では、有償のシステムライセンスの適用が必要な機能には次のマークを記載しています。

- ・「エンタープライズライセンス」を適用している場合のみ使用可能

エンタープライズライセンス

- ・「SRT機能拡張ライセンス」を適用している場合のみ使用可能

SRT機能拡張ライセンス

- ・「フェイルオーバー機能拡張ライセンス」を適用している場合のみ使用可能

フェイルオーバー機能拡張ライセンス

- ・「プレイバック機能拡張ライセンス」を適用している場合のみ使用可能

プレイバック機能拡張ライセンス

第2章 ライブ画面 / 設定画面の表示

2-1. ライブ画面を表示する

1. 製品前面の電源ボタン (⏻) を押します。

参考

- ・ FDF2712W-IP / FDF2312W-IPの場合は、背面の主電源スイッチが入っていることを確認してください。

電源ランプが青色に点灯し、ライブ画面が表示されます。

ライブ画面の構成



2-2. 設定画面を表示する

ユーザーレベル「ADMIN」

設定画面は、モニターコンソール（モニター上に表示される画面）、またはWebコンソール（ブラウザに表示される画面）で操作できます。

設定画面を表示するには、ユーザーレベルが「ADMIN」のユーザーでログインする必要があります。

参考

- ・初期設定のユーザーアカウントは次のとおりです。
 - ユーザー名：「admin」
 - パスワード：「admin」
 - ユーザーレベル：「ADMIN」
- ・ユーザーレベルについては「1-2. ユーザーレベル」(P.6)を参照してください。
- ・第三者によるカメラ操作や設定改ざんを防ぐため、設定終了後ログアウトすることをお勧めします。
- ・自動ログインの設定をおこなうと、ユーザー名とパスワードを入力せずにシステムにログインできます（「7-4. 自動ログインの設定をおこなう」(P.72)参照）。

● モニターコンソールを使う場合

操作はUSBマウスでおこないます。リモコンでは設定画面の操作はできません。

参考

- ・文字入力が必要な項目をクリックすると、ソフトウェアキーボードが表示されます。


1. ライブ画面でログインアイコン () をクリックします。

2. ユーザー名とパスワードを入力します。

参考

- ・「アカウントタイプ」が「LDAP」の場合、事前に「LDAP設定」の「ログインダイアログでアカウントタイプを選択する」をチェックすると、ログインする際にアカウントタイプを選択できます（「7-5. LDAP設定をおこなう」(P.72)）。

3. 「ログイン」をクリックします。

設定アイコン () が選択できるようになります。

4. 設定アイコン () をクリックします。

● Webコンソールを使う場合

操作はネットワークに接続したコンピュータからおこないます。

参考

- WebブラウザはMicrosoft Edge 79以降を推奨します。

1. ブラウザを起動します。

2. アドレスを入力してアクセスします。

アドレス: <http://この製品のIPアドレス/>

初期設定の場合は<http://192.168.0.150/>で表示できます。

3. ユーザー名とパスワードを入力します。

4. 「OK」をクリックします。

設定画面が表示されます。

参考

- ログインできない場合は次のアドレスをお試しください。 <http://この製品のIPアドレス/index.html>

設定画面の構成



設定画面 (Webインターフェース)

参考

- モニターコンソールの場合、「ログアウト」ではなく「戻る」が表示されます。

第3章 ライブ画面の操作

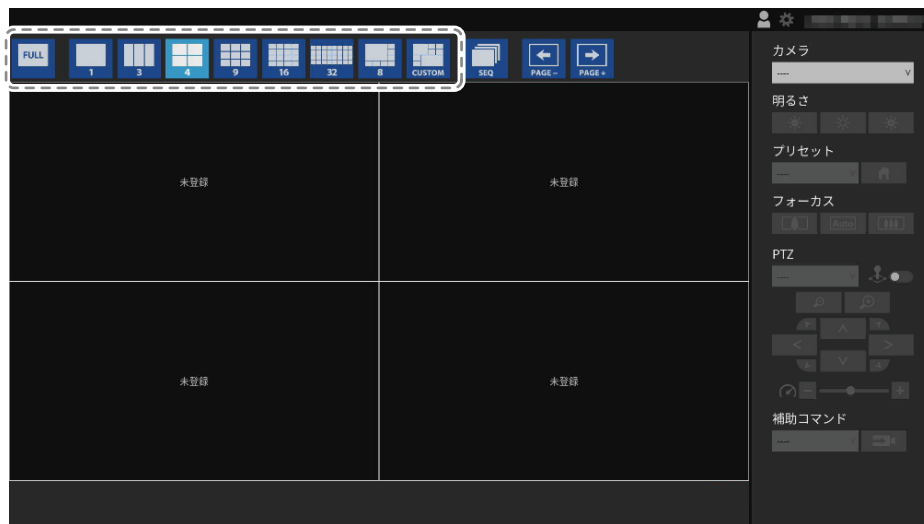
ライブ画面は、USBマウス、USBキーボード、リモコン、ジョイスティックで操作できます。

- USBキーボードとリモコンの操作

項目	USBキーボード	リモコン
項目を選択するとき	矢印キー	△/▽/◀/▶
選択した項目を設定するとき	エンターキー	ENTER
カメラの選択状態を解除するとき	エスケープキー	RETURN

3-1. ライブ画面のレイアウトを切り替える

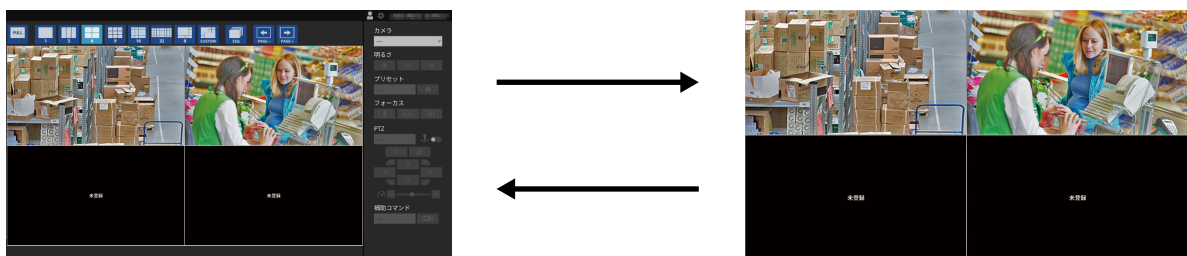
ライブ画面に同時に表示するカメラ映像の数を設定します。



● フルスクリーン表示にする

1. **FULL** をクリックします。

メニューが隠れ、画面全体に映像が表示されます。再度メニューを表示する場合は、画面のどこかをダブルクリックします。



参考

- 次の方法でも操作できます。
 - USBキーボード：ショートカットキー (F)
 - リモコン：FULL

● レイアウトを切り替える

1. 表示するレイアウトのアイコンをクリックします。

表示メニューのレイアウトアイコンを選択することで画面のレイアウトが切り替わります。

参考

- 3面レイアウトを使用する場合は、カメラ側で縦長の画像を表示するための設定が必要です。詳細は、カメラの取扱説明書を参照してください。
- 次の方法でも操作できます。
 - USBキーボード：ショートカットキー（L）
 - リモコン：LAYOUT
- エンタープライズライセンスが登録されている場合、表示するレイアウトアイコンを変更できます（「6-4. 表示するレイアウトアイコンを変更する」（P.62））。

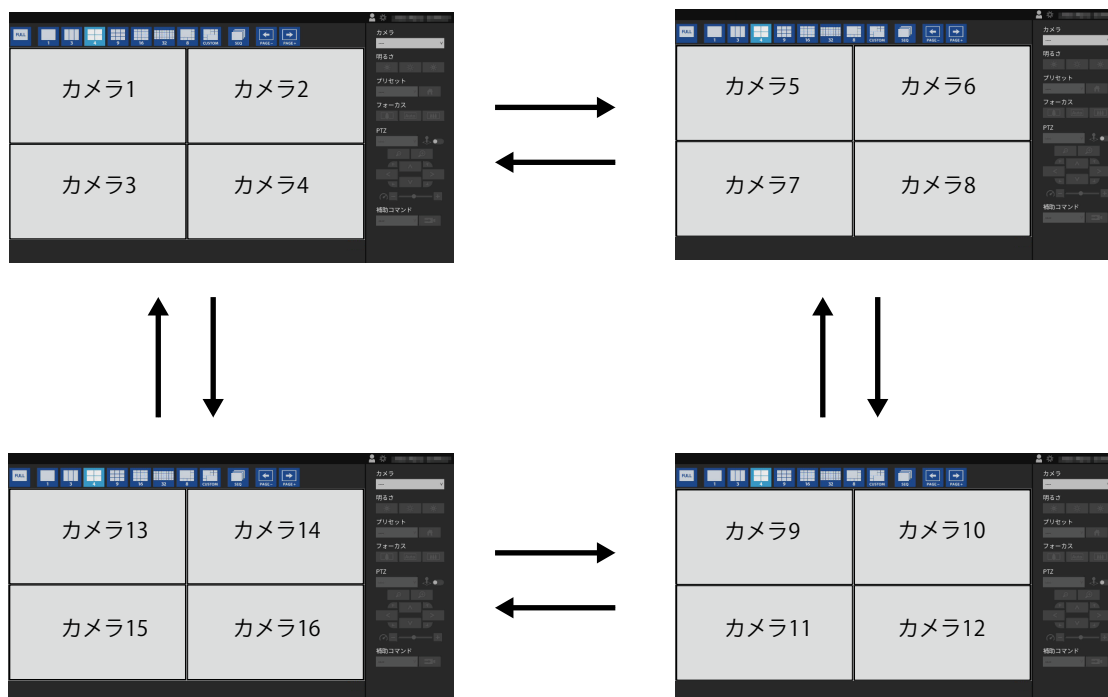
3-2. ライブ画面の表示ページを切り替える

ページを切り替えてカメラ映像を表示します。ページの切り替えは、手動で切り替える方法と、一定の間隔で自動的に切り替える方法（シーケンス表示）があります。

● 手動で切り替える

1. 表示メニューの または をクリックします。

例：画面のレイアウトが4面、かつカメラ登録台数が16台の場合



参考


- 次の方法でも操作できます。
 - USBキーボード：ショートカットキー（PageDownまたはPageUp）
 - リモコン：PAGE+またはPAGE-

● 自動的に切り替える（シーケンス表示）

1. 表示メニューの をクリックします。

指定された間隔で、画面に表示されるページが自動的に切り替わります。

参考

- ページを切り替える間隔は設定画面で変更できます（「6-2. カメラ映像の表示方法を設定する」(P.60)）。初期設定は10秒です。
- シーケンス表示を停止するときは、再度  をクリックします。
- カメラ映像をクリックすると、シーケンス表示を停止します。
- 次の方法でも操作できます。
 - USBキーボード：ショートカットキー（S）
 - リモコン：SEQUENCE

3-3. 1面レイアウトのフルスクリーン表示に切り替える

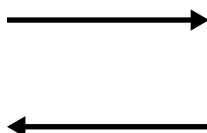
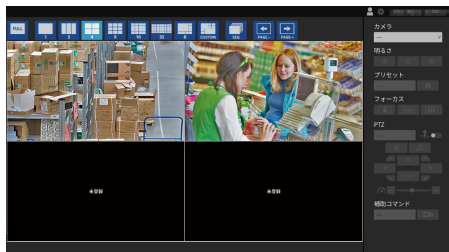
現在の表示状態と1面レイアウトのフルスクリーン表示を切り替えます。操作はUSBマウスでおこないます。USBキーボードやリモコンでは操作できません。

1. メニュー表示状態で、フルスクリーン表示にしたいカメラ映像をダブルクリックします。

1面レイアウトの全画面表示に切り替わります。カメラ映像をダブルクリックすると、元の表示状態に戻ります。

参考

- ジョイスティックモード中はこの機能は無効になります。

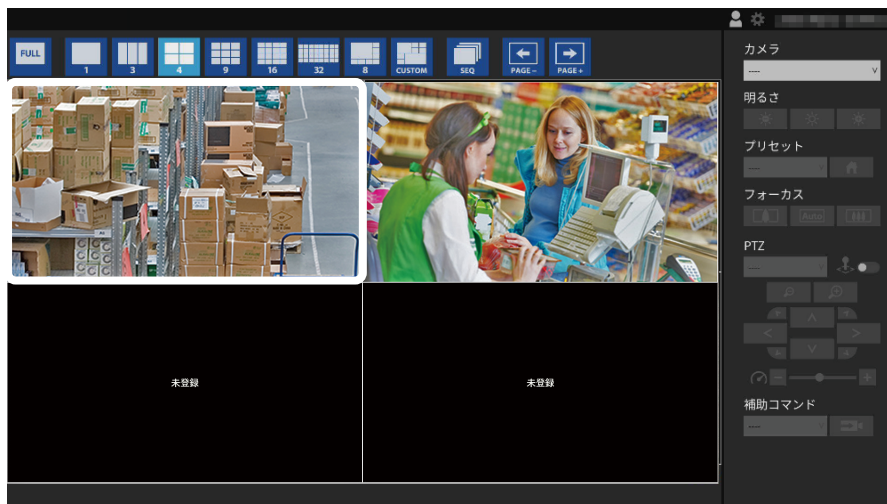


3-4. カメラ映像の表示位置を入れ替える

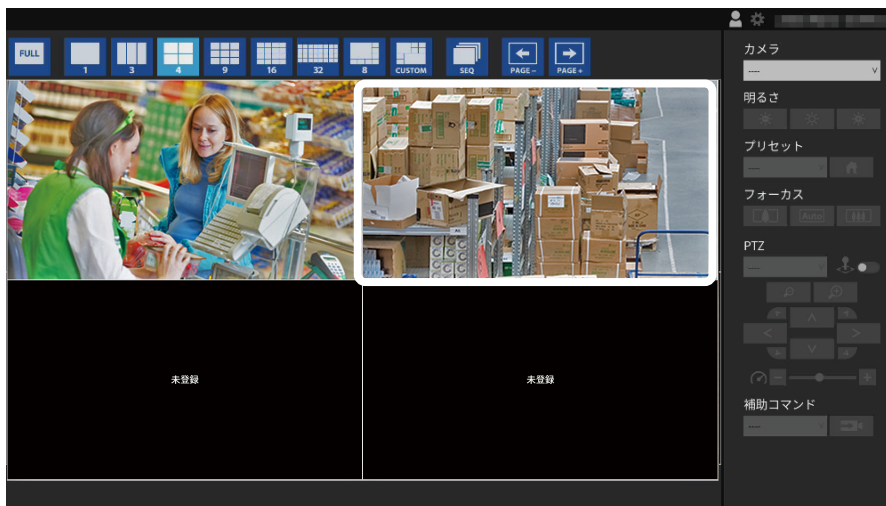
ユーザーレベル「ADMIN」または「CAMERA CONTROL」

画面のレイアウトが1面以外の場合は、カメラ映像を表示する位置を入れ替えることができます。操作はUSBマウスでおこないます。USBキーボードやリモコンでは操作できません。

1. USBマウスで移動するカメラ映像を選択し、ドラッグした状態で移動先のカメラ映像の位置へドロップします。



移動元と移動先のカメラ画像の表示位置が入れ替わります。



3-5. カメラを操作する

ユーザーレベル「ADMIN」または「CAMERA CONTROL」

注意点

- すべての機能を利用できるとは限りません。この製品から利用できない、あるいは期待どおりに動作しない機能については、カメラ側で操作してください。

参照

- カメラ映像の表示位置は設定画面で変更できます（「6-1. カメラ映像の表示位置を設定する」（P.58））。

1. 「カメラ」リストボックスから、操作するカメラを選択します。








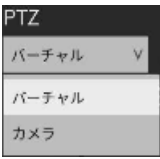




選択されたカメラ映像の枠線が水色になります。




参考

- 操作するカメラは次の方法で選択することもできます。
 - USBキーボードの数字キーで画面番号を入力
 - リモコンの数字ボタンで画面番号を入力
 - カメラ映像をUSBマウスでクリック

2. 各機能を操作します。



機能	内容
明るさ	カメラの明るさを調整します。  : 画像が暗くなります。  : 明るさを初期設定に戻します。 ※1  : 画像が明るくなります。
プリセット	カメラの向きを、あらかじめ登録した位置に移動します。  を選択すると、カメラの向きがホームポジションに移動します。
フォーカス※4	カメラの焦点を調節します。  : 焦点が近くなります。 ※2  : 焦点を自動的に調節します。 ※3  : 焦点が遠くなります。 ※2
PTZ：操作対象の選択	PTZ操作の対象を選択します。  バーチャル：この製品の内部でカメラ映像をデジタル処理することでPTZ操作をおこないます。 カメラ：カメラ側でカメラの機能を使用してPTZ操作をおこないます。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 「バーチャル」を選択した場合、カメラの「プロトコル」の設定に関わらずPTZ操作がおこなえます。ただし、次の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> - ジョイスティックモードは有効にできません。 - 圧縮形式がMJPEGの場合、PTZ操作はできません。
PTZ：ジョイスティックモード	カメラのPTZ操作を連続的におこないたい場合に有効にします。  : ジョイスティックモードが無効です。  : ジョイスティックモードが有効です。 注意点 <ul style="list-style-type: none"> PTZの操作対象が「バーチャル」の場合、ジョイスティックモードは有効にできません。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 次の方法でも操作できます。 <ul style="list-style-type: none"> - USBキーボード：ショートカットキー (J) - ジョイスティック (T8311) : Rボタン
PTZ：ズーム	カメラの表示倍率を調節します。  : ズームアウトします。  : ズームインします。 参考 <ul style="list-style-type: none"> 次の方法でも操作できます。 <ul style="list-style-type: none"> - USBキーボード：ショートカットキー (+または-) - リモコン：ZOOM+またはZOOM- ジョイスティックモードが有効な場合のみ、次の方法でも操作できます。 <ul style="list-style-type: none"> - ジョイスティック (T8311) : ノブを回転 - USBマウス：ホイールボタンを回転

機能	内容
PTZ：ポジション	<p>カメラの水平位置（パン）と垂直位置（チルト）を調節します。</p>  <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の方法でも操作できます。 <ul style="list-style-type: none"> - USBキーボード：ショートカットキー（Ctrlと↑、Ctrlと↓、Ctrlと←、Ctrlと→） - ジョイスティックモードが有効な場合のみ、次の方法でも操作できます。 <ul style="list-style-type: none"> - ジョイスティック（T8311）：スティックを傾ける - USBマウス：左ボタンをクリックしたままマウスを移動
PTZ：PTZアジャスト	<p>PTZ操作の動作量を調節します。スライダーが右側に行くほど動作量が大きくなります。</p>  <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> USBキーボードの場合は、ショートカットキー（Ctrlと-またはCtrlと+）を押すことでPTZアジャストを調節します。
補助コマンド	<p>カメラの補助機能进行操作、または登録したイベントルールのアクションを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「補助コマンド」のリストボックスを選択します。  を選択します。 <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> カメラの補助機能は、プロトコルが「ONVIF」または「Panasonic/i-PRO」の特定機器でのみ操作できます。 イベントルールのイベントは、カメラを選択していない状態でのみ実行できます。

※1 「プロトコル」が「ONVIF」、「AXIS®」のカメラの場合は、設定できません。

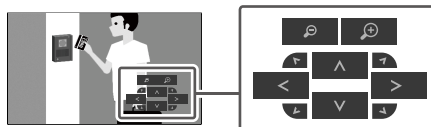
※2 「プロトコル」が「ONVIF」、「AXIS」のカメラの場合は、手動調整モードに切り替わります。

※3 「プロトコル」が「ONVIF」、「AXIS」のカメラの場合は、自動調整モードに切り替わります。

※4 「プロトコル」が「AXIS」のカメラの場合は、設定できません。

参考

- 映像表示エリアでカメラ映像を選択した場合、映像に重ねて表示されるボタンでPTZ操作をおこなうことができます。



3-6. カメラのSDカードに保存された動画を再生する

エンタープライズライセンス

プレイバック機能拡張ライセンス

ユーザーレベル「ADMIN」または「CAMERA CONTROL」

プレイバック画面では、カメラのSDカードに保存されている動画を再生できます。

注意点

- この機能が有効な場合、「プレイバック」タブと「ライブ」タブが表示されます。
 - 動画の時刻が正しく表示されない場合は、製品本体とネットワークカメラのタイムゾーンの設定を確認してください。
 - MJPEGで録画されたファイルの再生には対応していません。
 - 「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」または「AXIS」の場合のみ使用できます。
 - 「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」の場合、次の制限があります。
 - 日付フィルターが無効の場合は、一番古いファイルを起点に最大50ファイルが「録画日時」リストに表示されます。
 - 1回の録画が複数のファイルに分割される場合があります。
 - ネットワークカメラに録画ストリーム1として録画されたファイルのみ再生できます。
 - 録画圧縮形式がJPEGの場合、再生に失敗します。
 - マルチセンサーカメラの場合、カメラ登録で設定したチャンネルのみ再生できます。
 - 「プロトコル」が「AXIS」の場合、次の制限があります。
 - 日付フィルターが無効の場合は、一番新しいファイルを起点に最大50ファイルが「録画日時」リストに表示されます。
 - 1回の録画が1つのファイルになるため、長時間の録画はファイルサイズが大きくなり、再生できない場合があります。
 - 1回の録画が1つのファイルになるため、録画が停止するまで「録画日時」リストには表示されません。次の手順に沿ってネットワークカメラを設定すると、設定した間隔でファイルを分割しながら録画を継続できます。
 1. イベント機能の「スケジュール」でパルスを作成し、間隔を2分に設定する（動画を2分ごとに分割する場合）。
 2. イベント機能の「ルール」で、「条件」を1で作成したパルスイベント、「アクション」を「映像の録画」、「プリバッファ」を「01」、「ポストバッファ」を「01:59」に設定し、保存する。
-




1. 「プレイバック」を選択します。

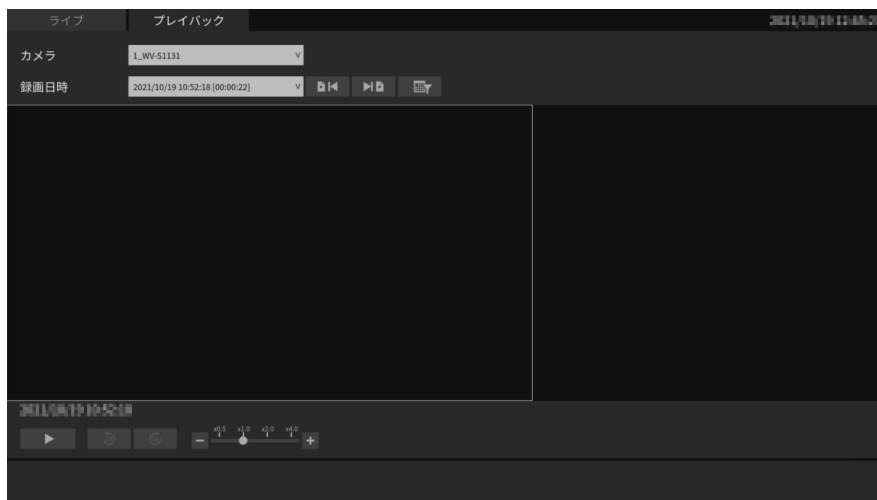
2. 「カメラ名」リストボックスから、カメラを選択します。

参考


- 「フェイルオーバー」機能拡張ライセンスが有効な場合、「フェイルオーバー用カメラに切り替え」が表示されます。「フェイルオーバー用カメラに切り替え」をチェックすると、選択できるカメラがフェイルオーバー用に登録したカメラに切り替わります。
-

3. 「録画日時」 リストボックスから、再生する動画ファイルを選択します。

「録画日時」リストボックスには最大50ファイル表示されます（録画中のファイルは表示されません）。 でひとつ前のファイル、 でひとつ後のファイルを選択することもできます。日付フィルター機能 （フィルタアイコン）を利用すると、「録画日時」リストボックスに表示する動画を日付でフィルタリングできます。



日付フィルター

「日付フィルター」を有効  にし、日付を指定します。「OK」をクリックすると、指定した日付を起点に最大50個の動画が「録画日時」リストボックスに表示されます。









4. を押します。

動画ファイルのダウンロードが開始し、ダウンロードが完了すると動画が再生されます。

注意点

• 動画ファイルのサイズが大きいと、ダウンロードが中断して動画が再生できない場合があります。

プレイバックの操作

機能	内容
再生/一時停止	動画を再生/一時停止します。  : 再生  : 一時停止
10秒巻き戻し	動画を10秒巻き戻します。 
10秒早送り	動画を10秒早送りします。 
再生速度調整	動画の再生速度をx0.5、x1.0、x2.0、x4.0から選択します。 
タイムライン	動画を再生中に、マウスポインタが映像表示領域にある、またはUSBキーボードなどで映像表示エリアを選択している場合、タイムラインを表示します。タイムラインを操作すると再生位置を変更できます。  注意点 ・カメラから動画の終了時間を取得できない場合、タイムラインは表示されません。

第4章 システムの設定

システムの日付や時刻、ネットワークの設定やメンテナンスをおこないます。

4-1. 基本情報の確認

この製品の各設定の現在の状態を一覧で表示します。



システム情報

- ・モデル名
- ・シリアルナンバー
- ・ソフトウェアバージョン
- ・エディション
- ・拡張機能
- ・セキュリティレベル エンタープライズライセンス
- ・解像度
- ・表示状態
- ・MACアドレス
- ・通信速度

カメラ・表示位置

日時設定

ネットワーク設定

通信設定

証明書設定

802.1X設定 エンタープライズライセンス

SNMP設定

その他システム設定

イベントルール設定

リモコン設定

ユーザーアカウント設定 エンタープライズライセンス

4-2. ネットワーク設定をおこなう

IPアドレスやDNS、NTPなどのネットワークの設定をおこないます。

1. 「システム」 > 「ネットワーク設定」 を選択します。

2. 各項目を設定します。

ネットワーク設定

項目	内容	設定範囲
IPアドレス設定	IPアドレスの設定方法を選択します。 参考 • DHCPサーバーがある環境の場合、「DHCP」を選択するとIPアドレスが自動的に設定されます。Webコンソールでは設定されたIPアドレスを確認できないため、モニターコンソールで確認してください。	DHCP / 手動
IPアドレス	他の機器と重複しないIPアドレスを設定します。 ゲートウェイがない環境の場合は、「ゲートウェイ」を設定する必要はありません。初期設定のままとするか、空欄としてください。 参考 • IPアドレスの初期値は「192.168.0.150」です。この製品を複数台設置する場合、重複しないIPアドレスを設定してください。	0.0.0.1 ~ 255.255.255.254
サブネットマスク		
ゲートウェイ		

DNS設定

項目	内容	設定範囲
DNS	(「ネットワーク設定」の「IPアドレス設定」で「手動」を選択した場合のみ) 「DNS」を設定します。	自動 / 手動
プライマリーサーバーアドレス	「DNS」で「手動」を選択した場合は、「プライマリーサーバーアドレス」、「セカンダリーサーバーアドレス」を設定します。	0.0.0.1 ~ 255.255.255.254
セカンダリーサーバーアドレス		

NTP設定

項目	内容	設定範囲
NTP	NTPサーバーを利用する / しないを設定します。	オン / オフ
サーバーアドレス	「オン」を選択した場合は、NTPサーバーのアドレスを設定してください。	英数字、記号

3. 「適用」 をクリックします。

4-3. 通信設定をおこなう

Webインターフェース機能や通信エラー検知を設定します。

1. 「システム」 > 「通信設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
通信エラー検知	映像データの受信が停止した場合のメッセージ表示タイミングを設定します。 <ul style="list-style-type: none">・ オン 映像データの受信が停止後の数秒以内に、ライブ画面上に赤枠のアラートメッセージが表示されます。通信が再開するとアラート表示が解除され、再度動画が表示されます。・ オフ 映像データの受信が停止してから約10秒経過後、通信エラーのメッセージが表示されます。	オン / オフ
Webインターフェース	ネットワークを経由して、Webブラウザからこの製品の操作や設定を可能にします。「オフ」を選択すると、Webブラウザから設定をおこなうことができません。	オン / オフ ^{※1}
プロトコル	Webサーバーとの通信プロトコルを選択します。 ^{※2}	HTTP / HTTPS ^{※3} / HTTP & HTTPS ^{※3}
HTTPポート	WebインターフェースのHTTPポートを設定します。	80、1024 ~ 65535
認証方式	Webインターフェースの認証方式を設定します。 ^{※4}	Digest認証 / BASIC認証
HTTPSポート	WebインターフェースのHTTPSポートを設定します。	443、1024 ~ 65535

※1 「USBロック」が「オン」、かつ「リモコンロック」が「オン」の場合に「オフ」にすることができません。

※2 選択するプロトコルによって、Webブラウザからこの製品にアクセスする際のアドレスが異なります。

「HTTP」：http://この製品のアドレス

「HTTPS」：https://この製品のアドレス

「HTTP & HTTPS」：上記どちらでもアクセス可能

※3 「証明書設定」で「自己証明書」または「認証機関に署名された証明書」を選択したときに設定できません。

※4 「ユーザーアカウント」が「LDAP」の場合は設定できません。

3. 「適用」をクリックします。

4-4. 日付と時刻を設定する

注意点

- 正しい日付を設定してください。正しい日付が設定されていない場合、証明書検証時のセキュア通信失敗の原因になります。カメラとの通信やLDAP設定でSSLを使用する場合、または、802.1Xを使用する場合は、長時間電源を入れない状態を避けるか、NTPを使用して正しい時刻が常に設定されるようにしてください。
- 1週間以上電源に接続していない場合は、製品の日付と時間が正確に表示されなくなります。その場合は、日時を設定し直してください。
- LDAPでセキュア通信できなくなった場合は、ログインができなくなります。リセットボタンでアカウント設定を初期化してください。

1. 「システム」 > 「日時設定」を選択します。

2. 現在の日付と時刻を設定します。

日付/時間表示設定

項目	内容	設定範囲
日付表示形式	日付の表示形式、時間の表示形式を設定します。	yyyy/mm/dd、Mmm/dd/yyyy、dd/Mmm/yyyy、mm/dd/yyyy、dd/mm/yyyy
時刻表示形式		24時間 / 12時間

タイムゾーン設定

項目	内容	設定範囲
タイムゾーン	タイムゾーンを設定します。	地域 / 都市

時刻設定

項目	内容	設定範囲
設定方法 Webコンソールのみ	時刻の設定方法を選択します。「PCと同期」を選択すると、コンピュータの現在の日付と時刻がこの製品に設定されます。	手動 / PCと同期
日時	現在の時刻を設定します。	2018/1/1 0:00 ~ 2035/12/31 23:59

3. 「適用」をクリックします。

4-5. 言語を設定する

システムの表示言語を設定します。

1. 「システム」 > 「その他システム設定」を選択します。

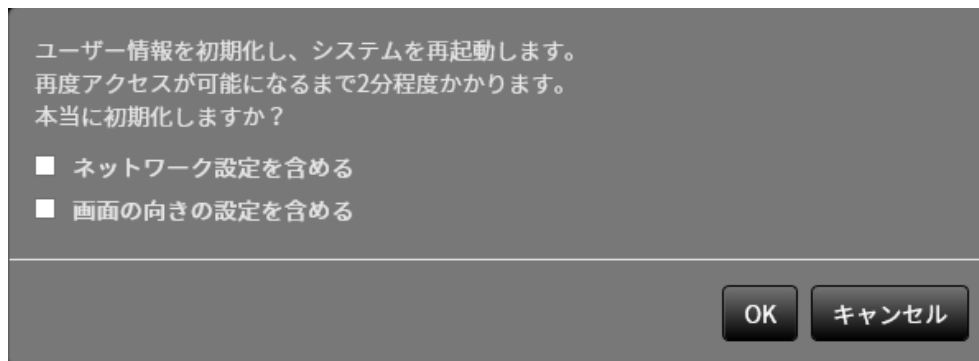
2. 「言語」のリストボックスから言語を選択します。

3. 「適用」をクリックします。

4-6. システムを初期化する

システムログ、操作ログ、現在時刻、タイムゾーン設定、ライセンス認証情報、ソフトウェアバージョン以外の設定を初期設定に戻します。

1. 「システム」 > 「メンテナンス」を選択します。
2. 「初期化」の「実行」をクリックします。
3. 初期化の対象にネットワーク設定を含める場合は、「ネットワーク設定を含める」にチェックします。



4. 「OK」をクリックします。

4-7. システムを再起動する

1. 「システム」 > 「メンテナンス」を選択します。
2. 「再起動」の「実行」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。

4-8. ソフトウェアを更新する

Webコンソールのみ

ソフトウェアのバージョンアップをおこなうことができます。バージョンアップ用のファイルは事前に当社Webサイト (www.eizo.co.jp) からダウンロードしてください。システムの安定稼働のために、最新のソフトウェアを使用することを推奨します。古いバージョンに戻すことはできません。

1. 「システム」 > 「メンテナンス」を選択します。

現在のソフトウェアバージョンが表示されます。

2. 「ソフトウェア更新」の「参照」をクリックします。

3. ソフトウェアファイル（拡張子：duraup4）を選択します。

4. 「実行」をクリックします。

5. 確認ダイアログボックスで「OK」をクリックします。

処理が開始されます。

処理中は、電源ランプが赤色に点滅します。電源を切らないでください。ソフトウェアの更新には5分程度かかります。

4-9. システムの設定情報を保存する

Webコンソールのみ

設定情報をファイルに書き出すことができます。書き出したファイルは、設定情報を移行するために使用できます。

1. 「システム」 > 「メンテナンス」を選択します。

2. 「設定情報の移行」の「設定情報の保存」をクリックします。

3. 「設定情報の保存」ダイアログボックスで「パスワード」を指定します。

4. 「実行」をクリックします。

5. ファイルの保存場所を指定します。

設定情報ファイルが保存されます。

注意点

- 一部の設定は保存できません。
- 保存時に指定したパスワードを忘れてしまった場合、設定ファイルを読み込むことができなくなります。

参考

- 保存ファイル名：（製品名）_Backup（保存日時）.duraconf2

4-10. システムの設定情報を読み込む

Webコンソールのみ

設定情報をファイルから読み込みます。

注意点

- ・ サーバー証明書、クライアント証明書を使用する設定は読み込みません。
- ・ 設定情報を保存した環境と設定情報を読み込む環境でネットワーク設定または通信設定が異なる場合は、Webコンソールを使用できなくなる可能性があります。

1. 「システム」 > 「メンテナンス」 を選択します。
2. 「設定情報の移行」 の「設定情報の読み込み」 をクリックします。
3. 設定情報ファイルを選択し、ファイルに設定したパスワードを入力します。

注意点

- ・ 「ネットワーク設定」 はチェックしないでください。
- ・ 「カメラ登録 / 表示」 はフェイルオーバーで登録したカメラの設定を含みます。

設定情報の読み込み

ファイル

パスワード

✓ カメラ登録/表示

システム

- ✓ 日時設定
- ネットワーク設定
- ✓ 通信設定
- ✓ SNMP
- ✓ IP アドレスフィルター設定
- ✓ その他システム設定
- ✓ イベントルール設定
- ✓ ホットキー設定
- ✓ Qognify

ユーザー

- ✓ ローカルユーザー設定
- ✓ LDAP設定

✓ フェイルオーバー

✓ ライブ画面

4. 「実行」 をクリックします。

4-11.ライセンスを登録する

Webコンソールのみ

エンタープライズライセンスや機能拡張ライセンスを登録すると、使用できる機能が増えます。詳しくは、販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

1. 「システム」 > 「メンテナンス」 を選択します。
2. 「ライセンス認証」の「認証」をクリックし、ライセンスファイル（拡張子：**duralic**）を選択します。

複数のライセンスファイルを選択する場合は、**+** をクリックします。

3. 「実行」 をクリックします。

ブラウザを閉じ、2分後に再度アクセスしてください。

参考

- ・ 「解除」 をクリックすると、追加登録しているすべてのライセンスが解除されます。
-

4-12. イベントルールを設定する

イベントルールを設定するイベントルールとは、特定のイベントをトリガーに特定のアクションを実行する機能です。「アラート受信」、「タイマー期限切れ」、「ビデオ出力状態の変化」などのイベントが発生したときに実行するアクションを設定することができます。

参考

- 合計で16個のイベントルールを設定することができます。

1. 「システム」 > 「イベントルール設定」を選択します。
2. イベントルールを登録する番号にチェックします。
3. 「設定」をクリックします。
4. 各項目を設定します。



項目	内容	設定範囲
名前	イベントルールの名前を入力します。英数字、記号以外の文字を入力する場合は、Webインターフェースを使用してください。	任意の文字（24文字まで）
状態	イベントルールの有効、無効を選択します。	有効 / 無効
イベント	トリガーにするイベントを選択します。イベントにより設定できる項目が異なります。	アラート受信 / タイマー期限切れ / ビデオ出力状態の変化 / フェイルオーバーモード開始 / 補助コマンド※1 / システム起動 / ネットワークリンクアップ / スケジュール / ストリームエラーの検知
アクション	イベント発生時に実行するアクションを選択します。アクションにより設定できる項目が異なります。	通知 / タイマースタート / SNMPトラップ / フェイルオーバー切替 / 電源操作

※1 ライブ画面の補助コマンド実行をトリガーにする場合に使用します。カメラの補助コマンドをトリガーにすることはできません。

「イベント」の「設定範囲」の詳細

イベント	判定条件
アラート受信 ^{※2}	HTTPアラートコマンドを受信した
タイマー期限切れ	「アクション」で設定したタイマーの期限が切れた
ビデオ出力状態の変化	電源オン中にHDMIの接続状態が変化した
フェイルオーバーモード開始	フェイルオーバー表示に切り替わった
補助コマンド	ライブ画面の補助コマンドでイベントを実行した
システム起動	主電源がオンになった
ネットワークリンクアップ	ネットワーク通信が可能な状態になった
スケジュール	設定した曜日、時刻になった
ストリームエラーの検知	ライブ画面に表示されているカメラからのデータ受信が一定時間止まった

※2 外部機器からアラート表示用のHTTPコマンドを送信する必要があります。詳しくは、販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

「イベント」に「アラート受信」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
カメラNo.	アラートを受信するカメラを選択します。	指定なし、1~48
トリガータイプ	イベントの発生タイミングを選択します。 アラート表示をトリガーとする場合にはオンを、非表示をトリガーとする場合にはオフを選択します。	指定なし / オン / オフ
ID ^{※3}	IDを指定します。	指定なし、1~16

※3 「トリガータイプ」が「指定なし」または「オン」の場合に設定できます。

「イベント」に「タイマー期限切れ」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
タイマーNo.	タイマーの番号を選択します。	1~8

「イベント」に「スケジュール」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
作動時刻	時刻を設定します。	00:00~23:59
作動曜日	曜日を選択します。複数選択ができます。	月 / 火 / 水 / 木 / 金 / 土 / 日

「イベント」に「ストリームエラーの検知」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
カメラNo.	検知対象にするカメラを選択します。検知対象で、かつ、現在ライブ画面に表示されていないカメラでストリームエラーが発生した場合は、該当のカメラがライブ画面に表示されたタイミングで検知されます。	指定なし、1~48
検知感度	映像データの受信が停止した後、通信失敗と判定するまでの時間を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高 映像データの受信が数秒間停止した場合、通信失敗と判定。 ・ 低 映像データの受信が約10秒間停止した場合、通信失敗と判定。 	低 / 高

「アクション」に「通知」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
プロトコル	通信プロトコルを選択します。	HTTP / HTTPS
URL	通知先のURLを入力します。	英数字、記号（32文字まで）
ユーザー名	URLにアクセスする時のユーザー名を入力します。	英数字、記号（32文字まで）
パスワード	URLにアクセスする時のパスワードを入力します。	英数字、記号（32文字まで）
実行	設定したURLにアクセスできるか確認するためのテストを実行します。	-

「アクション」に「タイマースタート」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
タイマーNo.	タイマーの番号を選択します。	1~8
設定時間	「分」、「秒」を設定します。	「分」：0~59、「秒」：0~59

「アクション」に「SNMPトラップ」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
トラップ名	トラップの名前を入力します。	Unicode印刷可能文字（128文字まで）
トラップメッセージ	トラップのメッセージを入力します。	Unicode印刷可能文字（128文字まで）
テスト	SNMPトラップの送信テストをおこないます。	実行

注意点

- ・事前にSNMPの「トラップアドレス」と「トラップコミュニティ」を設定してください。

「アクション」に「電源操作」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
電源状態	電源状態を選択します。	オン/クイック電源オフ

5. 「OK」をクリックします。

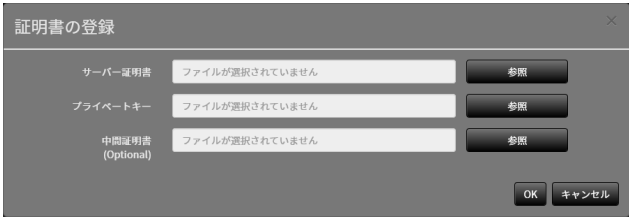
4-13.サーバー証明書を登録する

サーバー証明書は、Webブラウザからこの製品にHTTPSでアクセスする際に使用します。

注意点

- この製品では、証明書署名要求（CSR）の作成はできません。

- 「システム」 > 「証明書設定」を選択します。
- 「証明書のタイプ」リストボックスから、証明書のタイプを選択します。

項目	内容
自己証明書	「自己証明書」の「作成」をクリックし、証明書を作成してから選択してください。
認証機関に署名された証明書 Webコンソールのみ	「認証機関に署名された証明書」の「登録」をクリックし、証明書を登録してから選択してください。登録には、認証機関から発行される情報の登録が必要です。 

- 「適用」をクリックします。

4-14.ルート証明書を登録する

Webコンソールのみ

ルート証明書は次の場合に使用します。

- カメラへのHTTPS接続
- LDAPサーバーへのLDAPS接続
- IEEE802.1X認証

注意点

- この製品にはルート証明書はプリインストールされていません。

- 「システム」 > 「証明書設定」を選択します。
- 「ルート証明書」の「登録」をクリックします。
- 「参照」をクリックし、ルート証明書を選択します。
- 「OK」をクリックします。

4-15. リモコンのIDを設定する

この製品を複数台使用する場合、製品とリモコンに共通のIDを設定することでリモコンで操作する製品を限定することができます。

参考

- ・ リモコンのIDが「0」の場合は、製品のIDとリモコンのIDが一致していない場合でも動作します。
- ・ リモコンのIDの初期値は「0」です。

● 製品側のIDを設定する

1. 「システム」 > 「リモコン設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
ID	IDにする番号を選択します。	0~99
ID表示	「オン」にすると、リモコンのIDボタンを押したときにライブ画面の右上にIDが表示されます。	オン/オフ

3. 「適用」をクリックします。

● リモコン側のIDを設定する

1. IDを3秒以上押し続けます。

2. IDを押したまま、設定したいID（0-99）を数字ボタンで入力します。

参考

- ・ 設定したいIDが1桁の場合は最初に0を入力してください。
（例：「3」を設定する場合は「03」と入力する。）

3. IDを離します。

参考

- ・ リモコンのIDを確認するときは、「ID表示」を「オン」に設定し、IDを押してください。
ライブ画面の右上に現在のIDが表示されます。

4-16.USB機器のホットキーを設定する

USB機器（USBマウス、USBキーボード以外）のボタンでライブ画面を操作できます。

参考

- ・ 対応しているUSB機器は次のとおりです。
 - AXIS T8311（ジョイスティック）

1. 「システム」 > 「ホットキー設定」 を選択します。
2. 「デバイス」 リストボックスから、設定するUSB機器を選択します。
3. 各ボタンの機能を設定します。

機能一覧

項目	内容
全画面	ライブ画面のメニューを表示 / 非表示します。
1面レイアウト	ライブ画面のレイアウトを1面に変更します。
3面レイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトを3面に変更します。
4面レイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトを4面に変更します。
9面レイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトを9面に変更します。
16面レイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトを16面に変更します。
32面レイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトを32面に変更します。
8面レイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトを8面に変更します。
カスタムスクリーンレイアウト※ ¹	ライブ画面のレイアウトをカスタムに変更します。
シーケンスモード	カメラ映像のシーケンス表示（表示ページを一定間隔で切り替えるモード）のオンまたはオフを切り替えます。
次ページ	ライブ画面に表示するカメラ画像を次のページに切り替えます。
前ページ	ライブ画面に表示するカメラ画像を前のページに切り替えます。
プリセット1※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット1に変更します。
プリセット2※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット2に変更します。
プリセット3※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット3に変更します。
プリセット4※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット4に変更します。
プリセット5※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット5に変更します。
プリセット6※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット1に変更します。
プリセット7※ ¹	ライブ画面のレイアウトをプリセット7に変更します。
レイアウト変更	ライブ画面のレイアウトをボタンを押すたびに切り替えます。
ジョイスティックモード※ ²	ジョイスティックモードのオンまたはオフを切り替えます。
左クリック※ ²	マウスの左クリックです。

※¹ ライブ画面上で表示される設定になっている場合のみ設定できます。

※² 特定のUSB機器のボタンに初期値として設定されています。初期設定されているボタン以外に設定することはできません。

AXIS T8311の初期設定

項目	内容
J1	全画面
J2	レイアウト変更
J3	次ページ
J4	前ページ
L※3	左クリック
R※3	ジョイスティックモード

※3 変更できません。

4. 「適用」をクリックします。

4-17.IEEE 802.1X認証を設定する

エンタープライズライセンス

参考

- ・この製品はEAPOL Version 2 (IEEE 802.1X-2004) で動作します

1. 「システム」 > 「802.1X設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
認証	認証方法を選択します。	オフ / EAP-TLS / EAP-PEAP
証明書の検証	サーバー証明書の検証について選択します。 注意点 ・証明書の検証を行う場合、認証サーバーのルート証明書が、この製品の「証明書設定」の「ルート証明書」に登録されている必要があります。	オフ / オン
Identity	ユーザーの名称を入力します。	英数字、記号 (32文字まで)

「認証」が「EAP-TLS」の場合

「クライアント証明書」の「登録」をクリックし、各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
クライアント証明書 Webコンソールのみ	クライアント証明書を指定します。	-
プライベートキー	プライベートキーを指定します。	-

「認証」が「EAP-PEAP」の場合

「クライアント証明書」の「登録」をクリックし、各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
パスワード	パスワードを入力します。	英数字、記号 (32文字まで)

3. 「適用」をクリックします。

4-18.SNMPを設定する

SNMPによる情報取得や、イベントルールのアクションとしてSNMPトラップを設定できます。

参考

- ・この製品はEAPOL Version 2 (IEEE 802.1X-2004) で動作します

1. 「システム」 > 「SNMP設定」 を選択します。
2. 「バージョン」 リストボックスから、バージョンを選択します。
3. 「バージョン」 が「v1 & v2c」 の場合、各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
読み取りコミュニティ	読み取りコミュニティを入力します。	英数字、記号 (32文字まで)
トラップアドレス	イベントルールのSNMPトラップ通知先アドレスを入力します。	0.0.0.1~255.255.255.254
トラップコミュニティ	トラップコミュニティを入力します。	英数字、記号 (32文字まで)

4. 「適用」 をクリックします。

注意点

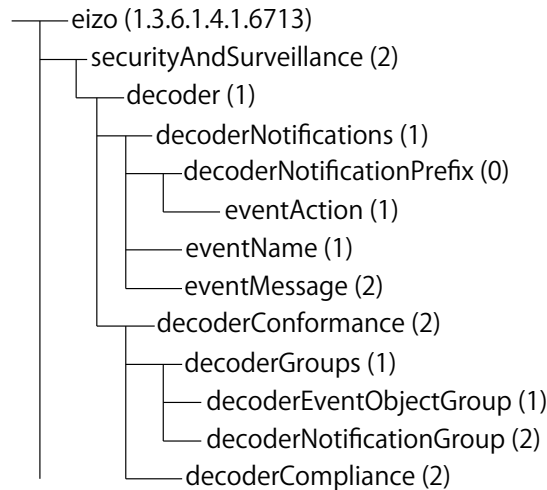
- ・「読み取りコミュニティ」 が空欄の場合、SNMPによる情報取得はできません。
- ・「トラップアドレス」と「トラップコミュニティ」 が空欄の場合、イベントルールのSNMPトラップは動作しません。

EIZO MIB構成

この製品でSNMPを利用する場合、下記のモジュールをSNMPマネージャーにインポートする必要があります。MIBファイルは事前に当社Webサイト (www.eizo.co.jp) からダウンロードしてください。

- EIZO-ROOT-MIB
- EIZO-SECURITY-MIB
- EIZO-DECODER-MIB

MIB Tree



名前	OID	TYPE	SYNTAX	MAX-ACCESS	説明
eventAction	.6713.2.1.1.0.1	NOTIFICATION-TYPE	—	—	アクション実行時のトラップ
eventName	.6713.2.1.1.1	OBJECT-TYPE	SnmpAdminString	accessible-for-notify	イベントルールで定義したイベント名
eventMessage	.6713.2.1.1.2	OBJECT-TYPE	SnmpAdminString	accessible-for-notify	イベントルールで定義したイベントメッセージ

4-19.IPアドレスフィルターを設定する

システムにアクセスできるコンピュータのIPアドレスを制限します。

注意

- IPアドレスフィルター設定が正しくない場合、この製品にアクセスできなくなります。
- 「IPアドレスフィルター」が「オン」の場合、カメラ探索でカメラは見つかりません。
- 「IPアドレスフィルター」が「オン」の場合でも、カメラ映像を受信するための通信は制限されません。

1. 「システム」 > 「IPアドレスフィルター設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
IPアドレスフィルター	機能の有効/無効を選択します。	オフ/オン
許可IPアドレス設定	アクセスを許可するコンピュータのIPアドレスを入力します。IPアドレスを範囲で指定する場合はCIDR表記で入力します。	0.0.0.1~255.255.255.254

3. 「適用」をクリックします。

4-20. フェイルオーバーを設定する

エンタープライズライセンス

フェイルオーバー機能拡張ライセンス

フェイルオーバーを有効にすると、表示中のカメラの死活監視をおこないます。エラー発生、またはカメラからのデータ受信が一定時間止まると障害発生と判断し、フェイルオーバー用に登録したカメラ一式に表示を切り替えます。フェイルオーバーに切り替わるとカメラ画像の枠線が黄色く表示されます。

参考

- ・ フェイルオーバーから通常のカメラ一式に表示を切り替えるには、次のいずれかの操作をおこないます。
 - 一度本体設定画面に移動し、カメラ表示画面に戻る。
 - イベントルールに「フェイルオーバー切り替え」を登録し、補助コマンドを使用する。
 - Webブラウザから「ライブ画面」 - 「システム状態設定」の「カメラモード」を「スタンダード」にする。

● フェイルオーバー設定

1. 「フェイルオーバー」 > 「フェイルオーバー設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
フェイルオーバー	機能の有効/無効を選択します。	オフ/オン
障害判定条件	障害判定条件を選択します。 参考 ・ 障害判定は表示中のカメラのみでおこないます。表示していないカメラは対象外です。	全てのカメラと通信失敗/いずれかのカメラと通信失敗
検知感度	映像データの受信が停止した後、通信失敗と判定するまでの時間を設定します。 ・ 高 映像データの受信が数秒間停止した場合、通信失敗と判定。 ・ 低 映像データの受信が約10秒間停止した場合、通信失敗と判定。	低/高

3. 「適用」をクリックします。

● カメラ登録

フェイルオーバー用カメラを登録します。

1. 「フェイルオーバー」 > 「カメラ登録」を選択します。

2. 次の項目を参照して、カメラを登録します。

「5-1. カメラを自動検出して登録する」 (P.47)

「5-2. カメラを手動登録する」 (P.48)

「5-3. カメラの情報を変更する」 (P.52)

「5-4. カメラを削除する」 (P.53)

「5-5. カメラの情報を読み込む」 (P.54)

● カメラ機能設定

フェイルオーバー用カメラの時刻、配信映像の画質、プリセット位置を設定します。

1. 「フェイルオーバー」 > 「カメラ機能設定」を選択します。

2. 次の項目を参照して、カメラの設定をおこないます。

[「5-6. カメラの時刻を設定する」](#) (P.54)

[「5-7. 配信映像の画質を設定する」](#) (P.55)

[「5-8. カメラのプリセット位置を登録する」](#) (P.57)

● 表示位置設定

フェイルオーバー用カメラのカメラ映像の表示位置を設定します。

1. 「フェイルオーバー」 > 「表示位置設定」を選択します。

参考

- ・「カメラ名表示」をチェックすると、通常使用しているカメラのカメラ名の表示が有効になります。
-

2. 次の項目を参照して、カメラの設定をおこないます。

[「6-1. カメラ映像の表示位置を設定する」](#) (P.58)

● オーバーレイ設定

フェイルオーバー用カメラのカメラ映像上にプライバシーマスクやバーチャルラインを表示することができます。

1. 「フェイルオーバー」 > 「オーバーレイ設定」を選択します。

参考

- ・「カメラ名」を選択した後、「設定読み込み」をクリックすると、通常使用しているカメラの設定を読み込むことができます。
-

2. 次の項目を参照して、オーバーレイを設定します。

[「6-6. オーバーレイを設定する」](#) (P.65)

● プリセット設定

フェイルオーバー用カメラのプリセット位置を登録します。

1. 「フェイルオーバー」 > 「プリセット設定」を選択します。

参考

- ・「カメラ名表示」をチェックすると、通常使用しているカメラのカメラ名の表示が有効になります。
-

2. 次の項目を参照して、カメラの設定をおこないます。

[「5-8. カメラのプリセット位置を登録する」](#) (P.57)

4-21. ログを確認する

このシステムでは、操作ログおよびシステムログが記録されています。システムの現在や過去の状況を確認したり、問題が起きたときに原因を探ったりするときに使うことができます。

1. 「トラブルシュート」 > 「ログ表示」 を選択します。
2. 「操作ログ表示」 または 「システムログ表示」 をクリックします。
下のエリアにログが表示されます。

4-22. ログを保存する

Webコンソールのみ

操作ログおよびシステムログを保存します。

システムの現在や過去の状況を確認したり、問題が起きたときに原因を探ったりするときに使います。

1. 「トラブルシュート」 > 「ログ表示」 を選択します。
2. 「操作ログ表示」 または 「システムログ表示」 をクリックします。
3. 「保存」 をクリックします。

4-23. 基本情報を確認する

この製品の基本情報を表示します。システムの現在の設定を確認したり、問題が起きたときに原因を探ったりするときに使うことができます。

1. 「トラブルシュート」 > 「ログ表示」 を選択します。
2. 「基本情報表示」 をクリックします。
下のエリアに基本情報が表示されます。

4-24. 基本情報を保存する

Webコンソールのみ

この製品の基本情報を保存します。システムの現在の設定を確認したり、問題が起きたときに原因を探ったりするときに使うことができます。

1. 「トラブルシュート」 > 「ログ表示」 を選択します。
2. 「基本情報表示」 をクリックします。
3. 「保存」 をクリックします。

4-25.カメラの接続確認をおこなう

Webコンソールのみ

ネットワークカメラの接続状態を確認することができます。

1. 「トラブルシューティング」 > 「接続確認」 を選択します。
2. 「カメラ名」 リストボックスから、カメラを選択します。
3. 「ping」 または 「traceroute」 の 「実行」 をクリックします。

下のエリアに接続状態が表示されます。



4-26.ネットワークの接続状態を確認する

1. 「トラブルシューティング」 > 「ネットワーク接続状態」 を選択します。

現在の通信帯域（送信、受信）が表示されます。

2. 「現在の状態」 を選択します。

下のエリアに接続状態が表示されます。

参考

- ・ 「再接続」 を選択すると、ネットワーク状態がリセットされます。接続状態は表示されません。

4-27. モニターの表示設定をおこなう

モニターの表示に関する設定をおこないます。

1. 「システム」 > 「その他システム設定」 を選択します。
2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
解像度 ^{※1}	モニターへの出力解像度を選択します。	1920x1080 / 2560x1440 / 3840x2160
マルチモニター設定	背面のHDMIコネクタからの信号の出力方法を選択します。	1画面 / 拡張 / 複製
画面の向き エンタープライズライセンス	製品から出力される映像の表示方向を切り替えます。	横 / 縦
回転方向 エンタープライズライセンス	「画面の向き」が「縦」の場合に、本体出力映像の回転方向を設定します。 参考 ・ FDF2712W-IP / FDF2312W-IPの場合、「プライマリー」は設定できません。	左 / 右

※1 DX0212-IPのみの設定です。

3. 「適用」 をクリックします。

4-28. その他の設定をおこなう

1. 「システム」 > 「その他システム設定」 を選択します。
2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
操作ロック	製品前面のボタン操作をロックします。	オン / オフ
USBロック Webコンソールのみ	USBデバイスの操作をロックします。 注意点 ・ 設定を変更した後、製品の再起動が必要です。	オン / オフ
リモコンロック Webコンソールのみ	リモコンの操作をロックします。	オン / オフ
起動ロゴ ^{※1}	起動時にロゴを表示する / しないを設定します。	オン / オフ
電源ランプ	通常動作時の電源ランプ（青）を点灯する / しないを設定します。	オン / オフ
キーボードレイアウト	キーボードの配列を選択します。	日本語 / 英語(US) / 英語(UK) / ドイツ語

※1 FDF2712W-IP / FDF2312W-IPのみの設定です。

3. 「適用」 をクリックします。

4-29.ストリーミングゲートウェイ機能の設定 (DX0212-IP)

エンタープライズライセンス

Webコンソールのみ

ストリーミングゲートウェイ機能は、カメラからの映像をRTSPプロトコルや安全で信頼性の高いSRTプロトコルに変換し、別のシステムに配信できます。ライブ画面の映像を配信する「マージモード」と個々のカメラ映像を配信する「リレーモード」の2つのモードがあります。

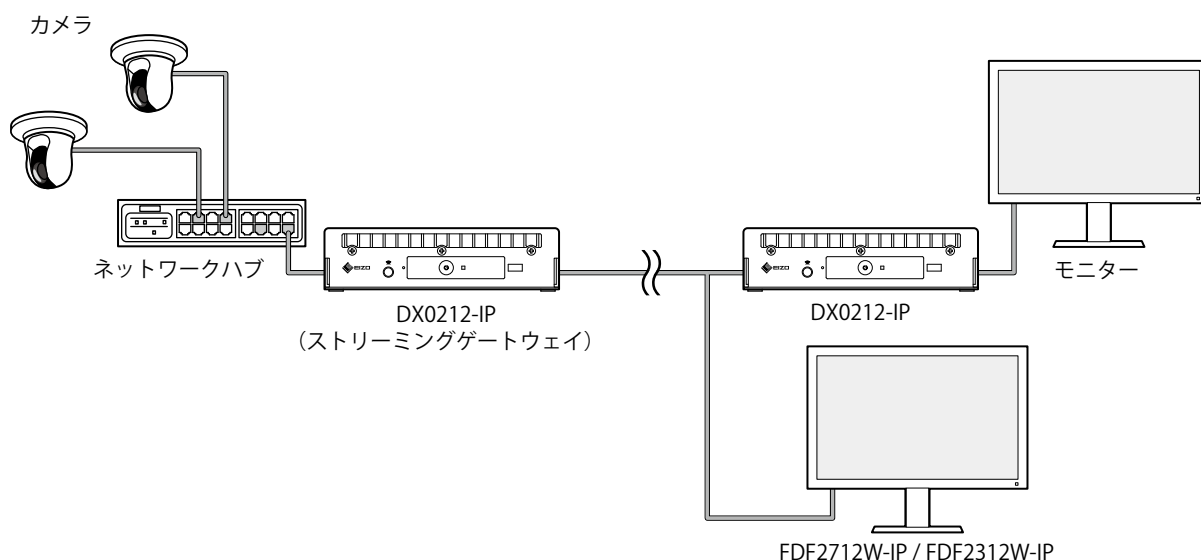
ストリーミングゲートウェイ機能で配信されたストリームは、他のEIZO製IPデコーダー（「プロトコル」を「EIZO Streaming Gateway」に設定）で受信できます。

- ・ マージモード

ライブ画面の表示をRTSPまたはSRTプロトコルに変換して配信するモードです。複数のカメラの映像を自由にレイアウトした画面（ライブ画面）をひとつのストリームとして配信するため、ネットワークの負荷を軽減できます。

- ・ リレーモード

個々のカメラから受信した映像をそのまま加工せずに、RTSPまたはSRTプロトコルで再配信するモードです。カメラ側に配信負荷をかけずにストリームの配信本数を増やせます。



● ストリーミングゲートウェイ設定

1. 「ストリーミングゲートウェイ」 > 「ストリーミングゲートウェイ設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

ストリーミングゲートウェイ設定

項目	内容	設定範囲
配信モード	配信モードを選択します。「オフ」を選択すると、ストリーミングゲートウェイ機能が無効になります。	マージモード/リレーモード/オフ

プロトコル設定

項目	内容	設定範囲
RTSP - ユーザー名	RTSPのユーザー名を入力します。*1	英数字、記号（32文字まで）、' "?/\{\} ~ % : ` , を除く
RTSP - パスワード	RTSPのパスワードを入力します。*1	英数字、記号（32文字まで）、' "?/\{\} ~ % : ` , を除く
RTSP - ポート	RTSPのポート番号を入力します。	554 / 1024 ~ 65535
RTSP - RTPパケットサイズ	送信するRTPパケットのサイズを設定します（単位：バイト）。	400 ~ 1400
SRT - 暗号化	暗号化の方式を選択します。	AES-128 / AES-192 / AES-256 / なし
SRT - パスフレーズ	パスフレーズを設定します。*2	英数字、記号（10 ~ 79文字まで）
SRT - TS パケットカウント	送信するSRTパケットの中に挿入するTSパケットの数を設定します。	1 ~ 7

*1 使用している環境に応じて設定してください。ユーザー名とパスワードが両方空白でも設定できます（どちらが一方だけが空白の場合は設定できません）。空白の場合は、認証無しでストリーミングを配信します。

*2 使用している環境に応じて設定してください。空白でも設定できます。空白の場合は、認証無しでストリーミングを配信します。

3. 「適用」をクリックします。

注意点

- ・ ストリーミングゲートウェイ機能を有効にすると、本体のHDMI 1コネクタに接続したモニターの表示は青画面に切り替わり、モニターコンソールからの操作はできなくなります。
- ・ 「配信モード」が「マージモード」の場合、次の点を確認してください。
 - 強制的にライブ画面に移行します。
 - 「ライブ画面」 > 「ライブ画面設定」の「全画面表示」は自動的に「オン」に変更されます。
 - 「システム」 > 「その他システム設定」の「マルチモニター設定」は自動的に「1画面」に変更されます。「拡張」表示での配信はできません（「画面の向き」は「横」でも「縦」でも配信できます）。
- ・ 「配信モード」が「リレーモード」の場合、次の点を確認してください。
 - カメラから受信した映像データをそのまま加工せずに出力します。解像度やフレームレートの変更もできません。
 - MJPEGのストリームは配信できません。
 - リレーモードを設定する前に、必ず本体のライブ画面でカメラ映像が正しく表示できていることを確認してください。

● 配信設定

1. 「ストリーミングゲートウェイ」 > 「配信設定」 を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
カメラ名※1	「配信モード」が「マージモード」の場合、「Live_View」と表示されます。「配信モード」が「リレーモード」の場合、「カメラ登録」画面と同じカメラ名が表示されます。	-
エンコード※2	エンコード設定を選択します。エンコード設定の各項目は「エンコード設定」(P.45) で設定します。	エンコード設定1 / エンコード設定2
プロトコル	プロトコルを選択します。	RTSP / SRT / RTP
IPアドレス※3	IPアドレスを入力します。	0.0.0.1 ~ 255.255.255.254 (マルチキャスト範囲 (224.0.0.0 ~ 239.255.255.255) は除く)
ポート※4	ポート番号を入力します。	1024 ~ 65535
MPEG2-TS※5	機能の有効/無効を選択します。「有効」を選択すると、MPEG2-TS over RTPで配信します。	オン / オフ
状態※1	現在の状態を表示します。	-

※1 読み取り専用です。

※2 「配信モード」が「マージモード」の場合に設定できます。

※3 「プロトコル」が「RTP」の場合に設定できます。

※4 「プロトコル」が「SRT」の場合に設定できます。別のカメラと重複しないポート番号を設定してください。

※5 「プロトコル」が「RTSP」の場合に設定できます。

3. 「適用」をクリックします。

● エンコード設定

1. 「ストリーミングゲートウェイ」 > 「エンコード設定」 を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
圧縮形式	圧縮形式を選択します。	H.264 / H.265
解像度	解像度を選択します。	1920x1080 / 1280x720 / 640x360
映像品質	映像品質を設定します。	10 ~ 100 (10単位)
フレームレート	フレームレート (映像の更新間隔) を設定します。	1 ~ 30
ビットレート	ビットレートを設定します。	512 ~ 8192
GOV長さ	1フレーム間隔を設定します。	1 ~ 60
プロファイル	プロファイルを選択します。「圧縮形式」が「H.265」の場合、「メイン」に設定されます。	ベースライン / メイン / ハイ

3. 「適用」をクリックします。

ストリーミングゲートウェイ機能の配信性能

ストリーミングゲートウェイ機能の配信性能は次のとおりです。

通信帯域

- 受信帯域：100 Mbps
- 送信帯域：300 Mbps

リレーモード

カメラからの映像入力		ストリーミングゲートウェイ配信
接続方式	最大接続数	最大接続数 (RTSPプロトコル)
RTP over RTSP	48	96

※ SRTプロトコルによる配信は、1ストリームの入力に対し1ストリームの出力をサポートします。

マージモード

カメラからの映像入力		ストリーミングゲートウェイ配信
接続方式	最大接続数	最大接続数 (RTSPプロトコル)
RTP over RTSP	32	32

※ SRTプロトコルによる配信は、各エンコード設定に対し1ストリームの出力をサポートします。

注意点

- 値は参考値です。
- 配信画像が乱れる場合は、次の点を確認してください。
 - カメラからの映像入力のストリーム本数を減らしてください。マージモードの場合は、「アドバンスド設定」の「非表示カメラ停止」機能を「オン」に設定し、表示されていないページのカメラ通信を止めることで、ストリーム本数を減らすことができます。
 - ビットレートを下げてください。

第5章 カメラの管理

カメラの登録や機能設定などをおこない、システムへ反映します。

5-1. カメラを自動検出して登録する

ネットワークに接続されたカメラを自動検出し、登録することができます。

注意点

次のカメラやビデオエンコーダは、手動で登録する必要があります（「5-2. カメラを手動登録する」（P.48）参照）。

- ・自動検出できないカメラ
 - 異なるサブネット上のカメラは自動検出できません。
 - カメラによっては自動検出を拒否する設定や、電源を入れてから一定時間だけ自動検出を許可する設定があります。
- ・複数のストリームで映像を配信する魚眼/パノラマカメラ
- ・複数のカメラを接続しているビデオエンコーダ

1. 「カメラ登録」を選択します。

2. 「自動検出」をクリックします。

3. 各項目を設定します。

項目	内容
プロトコル	カメラを制御するプロトコルを選択します。 「Panasonic/i-PRO」：パナソニック社/i-PRO社のカメラ 「AXIS」：アクシス社のカメラ（VAPIX®） 「ONVIF※1」：ONVIF Profile S準拠のカメラ
ユーザー名	カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。
パスワード	カメラのパスワードを入力します。

※1 「プロトコル」が「ONVIF」の場合、「メディアタイプ」は「Media1」になります。

4. 「OK」をクリックします。

検出されたカメラが一覧表示されます。

カメラを自動検出できるかは、カメラやネットワークに依存します。一覧に表示されないカメラは手動で登録してください。

5. 登録するカメラをチェックし、「追加」をクリックします。

6. 「適用」をクリックします。

ライブ画面にカメラの映像が表示されます。

5-2. カメラを手動登録する

次のカメラやビデオエンコーダは、手動で登録する必要があります。

- 自動検出できないカメラ
- 異なる映像を複数のストリームで配信する魚眼/パノラマカメラ
 - 同じIPアドレスで魚眼/パノラマカメラを複数台登録し、表示するストリームを指定します。
- 複数のカメラを接続しているビデオエンコーダ
 - 同じIPアドレスでビデオエンコーダを複数台登録し、表示するストリームを指定します。パナソニック社/i-PRO社の複数チャンネル対応ビデオエンコーダの場合、「チャンネル」で表示するカメラを指定します。

1. 「カメラ登録」を選択します。

2. 登録する位置番号をチェックし、「手動登録」をクリックします。

3. 手動登録ダイアログボックスで各項目を設定します。

プロトコルによって表示項目が変わります。はじめに「プロトコル」を選択してください。

項目	内容	設定範囲
カメラ名	カメラ名を入力します。英数字、記号以外の文字を入力する場合は、Webコンソールを使用してください。「IPアドレス」、「ポート」、「ユーザー名」、「パスワード」を入力して「カメラ名取得」をクリックすると、カメラ側からカメラ名を取得できます。	任意の文字（100文字まで）
IPアドレス	カメラのIPアドレスを入力します。	0.0.0.1 ~ 255.255.255.254
「Ping」ボタン	カメラに対して接続テストをおこないます。	-
ポート	カメラのポート番号を入力します。 参考 <ul style="list-style-type: none">• 一般的なポート番号は、「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」、「AXIS」、「ONVIF」の場合は「80」（SSLが有効な場合は「443」）、「プロトコル」が「DirectUri」かつ「URI」がRTSPストリームURIの場合は「554」です。• 「プロトコル」が「EIZO Streaming Gateway」の場合は、Streaming GatewayのWebサーバーのアクセスポートを入力します（初期値：80）。	1 ~ 65535
SSL	セキュア通信をおこないます。 注意点 <ul style="list-style-type: none">• カメラにサーバー証明書が設定されている必要があります。• 映像は暗号化されません。「プロトコル」が「SRT」の場合、または「プロトコル」が「AXIS」かつ「配信方式」が「SRTP over UDP」の場合に映像が暗号化されません。	-
証明書の検証	SSL通信時の証明書の検証について選択します。 注意点 <ul style="list-style-type: none">• 「証明書の検証」が「オン」の場合、カメラのルート証明書が、「証明書設定」の「ルート証明書」に登録されている必要があります。	オン/オフ

項目	内容	設定範囲
プロトコル	カメラを制御するプロトコルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Panasonic/i-PRO パナソニック社/i-PRO社のカメラ • AXIS アクシス社のカメラ (VAPIX) • ONVIF ONVIF Profile S準拠のカメラ • DirectUri RTSPストリームURI (rtsp://から始まるURI)、またはRTPストリームURI (rtp://から始まるURI) に接続する場合に選択します。 • SRT SRTストリームURIに接続する場合に選択します。 • EIZO Streaming Gateway ストリーミングゲートウェイ機能が有効なDX0212-IP**2)に接続する場合に選択します。 	Panasonic/i-PRO / AXIS / ONVIF / DirectUri / SRT **1) / EIZO Streaming Gateway
ユーザー名	カメラのユーザー名を入力します。管理者権限を持つユーザーが必要です。	英数字、記号 (32文字まで)
パスワード	カメラのパスワードを入力します。	英数字、記号 (32文字まで)

※1 この製品にエンタープライズライセンスと「SRT」機能拡張ライセンスが登録されている場合に選択できません。

※2 事前にストリーミングゲートウェイ機能の設定を完了しておく必要があります。

「Panasonic/i-PRO」を選択した場合

この製品からユニキャスト/マルチキャストを設定することはできません。カメラ側で配信方式を変更してください。

項目	内容	設定範囲
接続方式	カメラ映像の接続方式を選択します。	RTP over UDP
ストリーム	接続するストリームを選択します。	1 / 2 / 3 / 4
チャンネル	ストリームのチャンネルを選択します。	1 / 2 / 3 / 4
RS485PTZ制御	RS485通信対応のカメラから、RS485パンチルト雲台を操作する / しないを設定します。	オン / オフ

「AXIS」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
ビデオストリーム	<p>ストリームのビューエリアを選択します。「ストリーム取得」ボタンをクリックすると、カメラ側からビューエリアの一覧を取得できます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> ビューエリアは、全体画像の一部をストリーミングする場合に使用します。詳細は、カメラの取扱説明書を参照してください。 	カメラにより異なる
ストリームプロファイル	<p>ストリームプロファイルを選択することで、接続するストリームを指定します。「プロファイル取得」をクリックすると、カメラ側からプロファイルの一覧を取得できます。</p> <p>参考</p> <ul style="list-style-type: none"> カメラ側にプロファイルが登録されていない場合、この製品はカメラに「EIZO_Profile」プロファイルを自動的に登録します。 	カメラにより異なる
配信方式	配信方式を選択します。	ユニキャスト / マルチキャスト
接続方式	カメラ映像の接続方式を選択します。	RTP over UDP / RTP over RTSP / SRTP over UDP ^{※1}

※1 この製品にエンタープライズライセンスが登録されている場合に選択できます。「SRTP over UDP」を選択する場合、「SSL」をチェックしてください。また、カメラ側のSRTP設定を有効にしておいてください。

「ONVIF」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
メディアタイプ	<p>メディアタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Media1（初期設定） H.264、MJPEGのストリームに接続する場合に選択します。 Media2 H.265、H.264のストリームに接続する場合に選択します。 	Media1 / Media2
メディアプロファイル	メディアプロファイルを選択することで、接続するストリームを指定します。「プロファイル取得」ボタンをクリックすると、カメラ側からプロファイルの一覧を取得します。	カメラにより異なる
配信方式	配信方式を選択します。	ユニキャスト / マルチキャスト
接続方式	カメラ映像の接続方式を選択します。	RTP over UDP / RTP over RTSP

「DirectUri」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
URI	RTSPストリームURI (rtsp://、http://またはhttps://から始まるURI)、またはRTPストリームURI (rtp://から始まるURI)を入力します。	英数字 (1023文字まで)
配信方式	配信方式を選択します。	ユニキャスト / マルチキャスト / Source-Specific Multicast
接続方式	カメラ映像の接続方式を選択します	RTP over UDP / RTP over RTSP / MPEG2-TS over UDP / RTSP over HTTP / RTSP over HTTPS

参考

- RTPでMPEG2-TSストリームを受信する場合、「接続方式」に「RTP over UDP」または「RTP over RTSP」を選択してください。
- UDPでMPEG2-TSストリームを受信する場合、次の点を確認してください。
 - 「ポート」にストリームを受信するポート番号 (1024~65535) を指定し、「接続方式」に「MPEG2-TS over UDP」を選択してください。
 - 事前に配信機器からこの製品に対してストリーム配信設定をしておいてください。
 - マルチキャスト通信でない場合、IPアドレスは空欄にしてください。

「SRT」を選択した場合

この製品はCallerモードで動作します。カメラ側をListenerモードに設定してください。

項目	内容	設定範囲
レイテンシ	レイテンシを設定します	20 ms ~ 8000 ms
URI	SRTストリームURI (srt://から始まるURI) を入力します。	英数字 (1023文字まで)
パスフレーズ	パスフレーズを設定します。	英数字、記号 (79文字まで)

「EIZO Streaming Gateway」を選択した場合

項目	内容	設定範囲
ストリームリスト	接続するストリームを指定します。「ストリームリスト取得」ボタンをクリックすると、配信機器からストリームの一覧を取得します。 注意点 ・ 配信元の「ストリーミングゲートウェイ」>「配信設定」>「プロトコル」が「RTP」に設定されている場合、そのストリームは選択できません。	-
RTSP - ユーザー名	RTSPのユーザー名が自動で設定されます。変更することもできます。	英数字、記号 (79文字まで)
RTSP - パスワード	RTSPのパスワードが自動で設定されます。変更することもできます。	英数字、記号 (79文字まで)
RTSP - 接続方式	カメラ映像の接続方式を選択します。	RTP over RTSP
SRT - レイテンシ※1	レイテンシを設定します。	20 ms ~ 8000 ms
SRT - パスフレーズ※1	パスフレーズが自動で設定されます。変更することもできます。	英数字、記号 (79文字まで)

※1 この製品にエンタープライズライセンスと「SRT」機能拡張ライセンスが登録されている場合に選択できません。

4. 「OK」をクリックします。

5. 「適用」をクリックします。

ライブ画面にカメラ映像が表示されます。

5-3. カメラの情報を変更する

1. 「カメラ登録」を選択します。

2. 変更するカメラの位置番号をチェックし、「手動登録」をクリックします。

3. 手動登録ダイアログボックスで各項目を設定します。

参考

・ 各項目の詳細は、「5-2. カメラを手動登録する」(P.48)を参照してください。

4. 「OK」をクリックします。

5. 「適用」をクリックします。

5-4. カメラを削除する

1. 「カメラ登録」を選択します。
2. 削除するカメラの位置番号をチェックし、「削除」をクリックします。
3. 確認ダイアログボックスで「OK」をクリックします。
4. 「適用」をクリックします。

5-5. カメラの情報を読み込む

Webコンソールのみ

カメラの追加候補を記載したCSVファイルを読み込んで、登録できます。

参考

- ・読み込みが可能なカメラの候補数は、255台です。
- ・読み込むことができるCSVファイルは次のとおりです。
 - 「カメラ情報の保存」機能で保存されたCSVファイル（「カメラ情報の保存」はバージョン6.0以前の機能です。）
 - ユーザーが作成したCSVファイル
 - 読み込み可能なCSVファイルの詳細は「8-6. カメラ登録用CSVファイル形式」（P.84）を参照してください。
- ・「CameraName」（カメラ名）が文字化けする場合は、Unicode UTF-8以外の文字コードを使用している可能性があります。Unicode UTF-8に変更してください。

1. 「カメラ登録」を選択します。
2. 「カメラ情報の読み込み」をクリックします。
3. カメラ情報が記載されているCSVファイルを選択し、「開く」をクリックします。
4. カメラの候補一覧から追加するカメラを選択し、「追加」をクリックします。
5. 「適用」をクリックします。

5-6. カメラの時刻を設定する

カメラの時刻をこの製品の時刻に合わせます。

注意点

- ・カメラがこの機能に対応していない場合は設定できません。
- ・カメラ登録時の「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」または「ONVIF」のときのみ設定可能です。

1. 「カメラ機能設定」を選択します。
2. 「カメラ名」リストボックスから、設定するカメラを選択します。
3. 「カメラ情報表示/時刻設定」タブを選択し、「カメラの時刻を同期」の「実行」をクリックします。

参考

- ・登録したカメラの「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」の場合は、次の項目も設定できます。
 - カメラ情報表示（「オン」 / 「オフ」）
 - 時間表示（「12時間」 / 「24時間」 / 「オフ」）
 - 表示位置（「左上」 / 「右上」 / 「左下」 / 「右下」）

5-7. 配信映像の画質を設定する

カメラが配信する映像の画質を設定します。

参考

- この製品は、H.265、H.264、MPEG（ONVIF ProfileS準拠のカメラのみ対応）の動画圧縮方式に対応しています。

注意点

- レコーダなどの機器がカメラに接続されている場合、それらの機器の録画や表示に影響を与える可能性があります。
- 「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」、「AXIS」、「ONVIF」の場合のみ設定可能です。

1. 「カメラ機能設定」を選択します。
2. 「カメラ名」リストボックスから、設定するカメラを選択します。
3. 「ビデオ設定」タブを選択し、各項目を設定します。

プロトコル			項目	内容	設定範囲
Panasonic/ i-PRO	AXIS	ONVIF ^{※7}			
		✓ ^{※3}	メディアタイプ	メディアタイプ（Media1またはMedia2）を表示します。	-
		✓	メディアプロファイル	プロファイルを選択します。	EIZO_Profile / 各カメラのプロファイル
		✓	エンコーダー	エンコーダー設定を選択します。	カメラの仕様による
✓ ^{※3}	✓	✓ ^{※8}	圧縮形式	圧縮形式を選択します。	H.264 / H.265 / MJPEG ^{※9}
✓ ^{※3}	✓	✓	解像度	解像度を設定します。	カメラの仕様による
✓ ^{※4}	✓	✓	フレームレート	フレームレート（映像の更新間隔）を設定します。	カメラの仕様による
		✓	エンコード間隔	エンコードの間隔を設定します。	カメラの仕様による
✓	✓	✓	ビットレート(最大)	最大ビットレートを設定します。	0～8192kbps
		✓	映像品質	画質を設定します。数値が大きいほど高画質になります。	カメラの仕様による
		✓	GOV長さ ^{※1}	1フレーム間隔を設定します。	カメラの仕様による
		✓	H.264プロファイル ^{※1}	H.264規格のプロファイルを選択します。	ベースライン / メイン / 拡張 / ハイ
✓ ^{※3}	✓ ^{※3}	✓ ^{※3}	接続方式	カメラ映像の接続方式が表示されます。	RTP over UDP / RTP over RTSP / SRTP over UDP
✓ ^{※3}	✓	✓	配信方式	配信方式を選択します。	ユニキャスト / マルチキャスト
✓ ^{※3}	✓	✓ ^{※2}	マルチキャストアドレス ^{※2}	マルチキャスト配信時のマルチキャストアドレスを設定します。	224.0.0.0～239.255.255.255
✓ ^{※3}	✓	✓ ^{※2}	マルチキャストポート ^{※2}	マルチキャスト配信時のマルチキャストポート番号を設定します。	1824～65534 偶数のみ
✓ ^{※3}	✓	✓ ^{※2}	マルチキャストTTL ^{※2}	マルチキャスト配信時のネットワークTTL値を設定します。	カメラの仕様による
✓			リフレッシュ間隔	画像をリフレッシュする間隔（フレーム間隔）を設定します。	0.2秒～5秒
✓			配信モード	動画のビットレート配信モードを設定します。	固定ビットレート / フレームレート指定 / ベストエフォート
✓ ^{※5}			ビットレート(最小)	配信する動画の最小ビットレートを設定します。	0～8192kbps

プロトコル			項目	内容	設定範囲
Panasonic/ i-PRO	AXIS	ONVIF ^{※7}			
✓ ^{※6}			画質	配信する動画の画質を設定します。	画質優先 / 標準 / 動き優先
	✓		ビデオストリーム	カメラ表示で使用する表示モードを選択します。	カメラ仕様による
	✓		ストリームプロファイル	カメラが保持しているプロファイルを選択します。	EIZO_Profile / 各カメラのプロファイル
	✓ ^{※3}		回転	画像の回転方向を選択します。	0 / 90 / 180 / 270
	✓ ^{※3}		GOP長さ ^{※1}	動画のGOP長さを選択します。	カメラ仕様による
	✓		優先度 ^{※1}	動画圧縮の優先度を設定します。	なし / フレームレート / 画質

※1 「圧縮形式」に「H.264」を選択した場合は表示されます。

※2 「配信方式」に「マルチキャスト」を選択した場合は表示されます。

※3 読み取り専用です。

※4 「配信モード」が「フレームレート指定」のときのみ調整可能

※5 「配信モード」が「ベストエフォート」のときのみ調整可能

※6 「配信モード」が「フレームレート指定」以外るとき調整可能

※7 「メディアタイプ」が「Media2」の場合、すべての項目が読み取り専用となり、設定の変更はできません。

※8 「メディアタイプ」が「Media1」の場合、「H.264」「MJPEG」に設定できます。「メディアタイプ」が「Media2」の場合、「H.265」「H.264」に設定できます。

※9 「プロトコル」が「ONVIF」の場合のみ設定できます。

参考

- ・「プロトコル」が「DirectUri」、「SRT」、「EIZO Streaming Gateway」の場合は、設定内容が表示されません。
- ・「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」の場合、「その他カメラ設定」タブを選択すると、次の項目が設定できます。
 - パン/チルトフリップ（「オン」 / 「オフ」）
 - 上下反転（「オン」 / 「オフ」）
 - ランプ表示（「オン」 / 「オフ」）

4. 「適用」をクリックします。

注意点

- ・カメラによっては、設定した値が反映されない場合があります。カメラの仕様を確認してください。
- ・解像度など画質設定を変更すると、同じ「エンコーダー」を使用している他の録画機器や表示機器の画質に影響を与える可能性があります。事前に画質設定の変更による影響を確認してください。

5-8. カメラのプリセット位置を登録する

注意点

- ・モニターコンソールで、かつ、カメラ登録時の「プロトコル」が「ONVIF」の場合のみ設定できます。

1. 「カメラ機能設定」を選択します。
2. 「カメラ名」リストボックスから、設定するカメラを選択します。
3. 「プリセット」タブを選択し、各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
プリセット	プリセットを選択します。	未選択 / 新規 / 登録済みのプリセット ^{※1} / HOME
プリセット名	プリセットの名前を設定します。	Unicode (255文字まで) ^{※2}
明るさ	カメラの明るさを調整します。	-
フォーカス	カメラの焦点を調節します。	-
PTZアジャスト	カメラの表示倍率、水平位置 (パン) と垂直位置 (チルト)、PTZ操作の動作量を調節します。	-

※1 登録済みのプリセットがある場合に表示されます。

※2 カメラの仕様によっては条件を満たしていても登録できない場合があります。

4. 「登録」をクリックします。

参考

- ・「削除」をクリックすると、選択している登録済みのプリセット設定が削除されます。

第6章 ライブ画面の設定

ライブ画面設定では、ライブ画面のレイアウト変更やシステムの現在の状態など、表示の設定をおこないません。

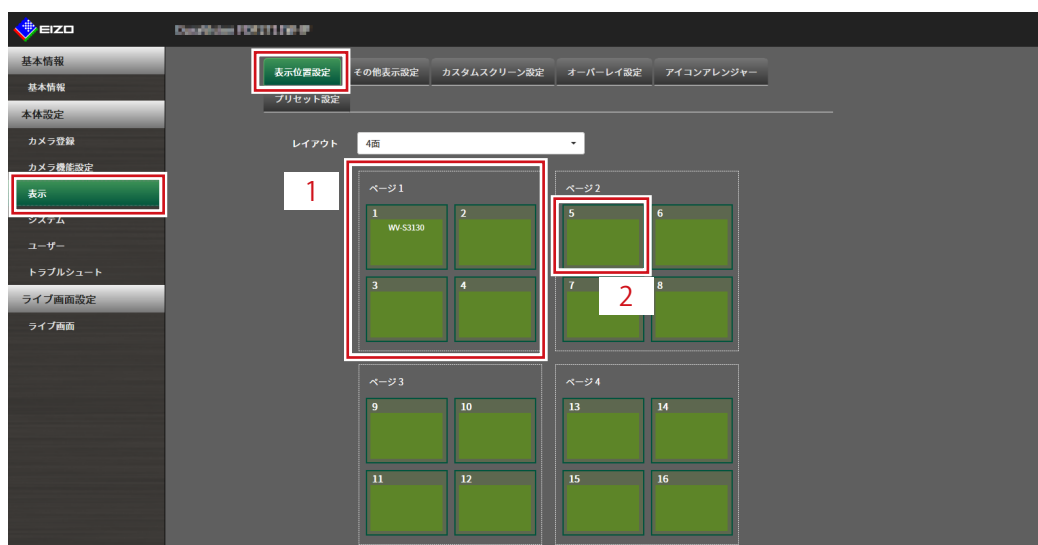
6-1. カメラ映像の表示位置を設定する

カメラ映像を表示する位置を設定します。

カメラ名をドラッグ&ドロップすることで、移動元と移動先に表示するカメラが入れ替わります。

1. 「表示」 > 「表示位置設定」を選択します。

「表示位置設定」画面が表示されます。



No.	説明
1	映像表示エリアに1度に表示されるカメラのグループです。
2	映像表示エリア内に表示されるカメラの位置です。登録したカメラ名が表示されます。

2. 「レイアウト」リストボックスから、ライブ画面のレイアウトを選択します。

レイアウトを選択すると、ページ内の表示が選択した状態に変化します。表示状態をイメージしながら設定できます。

3. 移動するカメラ名を選択し、ドラッグした状態で移動先のカメラ名へドロップします。

移動元と移動先のカメラ映像の表示位置が入れ替わります。

例) レイアウト4面の場合

1. ページ1の「表示位置1」を選択します。
2. ドラッグした状態でページ2の「表示位置5」にドロップします。
「表示位置1」のカメラと「表示位置5」のカメラが入れ替わります。
カメラ映像の表示位置は移動せずに、内枠四角のカメラ名のみが移動します。

4. 「適用」をクリックします。

カメラ映像の表示位置が反映されます。「リセット」をクリックすると、設定変更中の情報は破棄され、現在の製品の表示設定になります。

参考

- Webコンソールの場合、カメラ名の割り当てがあるフレームは、フレームにカメラのWebページリンクが埋め込まれています（「プロトコル」が「DirectUri」または「SRT」のネットワークカメラの場合を除く）。カメラ名をクリックすると別ウィンドウでカメラのWebページが開きます。
-

6-2. カメラ映像の表示方法を設定する

ライブ画面に表示するカメラ名の表示/非表示、画面の切り替え間隔、アスペクト比、「未登録」テキストの表示/非表示の設定をおこないます。

1. 「表示」 > 「その他表示設定」を選択します。

2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
カメラ名表示	登録されているカメラ名をライブ画面に表示する/しないを設定します。	オン/オフ
サイズ	フォントサイズを設定します。	大/中/小
文字色	文字色を設定します。	白/黒
文字枠	文字に縁取りをつける/つけないを設定します。	オン/オフ
背景	文字の背景を半透明にする/しないを設定します。	オン/オフ
位置	文字の表示位置を設定します。	左上/右上/左下/右下
シーケンス間隔	シーケンス表示時に画面が切り替わる間隔を設定します。	5秒～60秒
アスペクト比モード	カメラから配信される映像のアスペクト比とモニターの画像表示エリアのアスペクト比が異なる場合に優先する方を設定します。「レイアウト」に「カスタムスクリーン」を選択した場合に「アスペクト」を選択すると、カメラ映像ごとに「フル」または「アスペクト」を選択できます。詳細は「 6-3. カスタムスクリーンのレイアウトを設定する 」(P.61)を参照してください。	フル/アスペクト
「未登録」表示	カメラが登録されていない場合に、「未登録」のテキストを表示する/しないを設定します。	オン/オフ

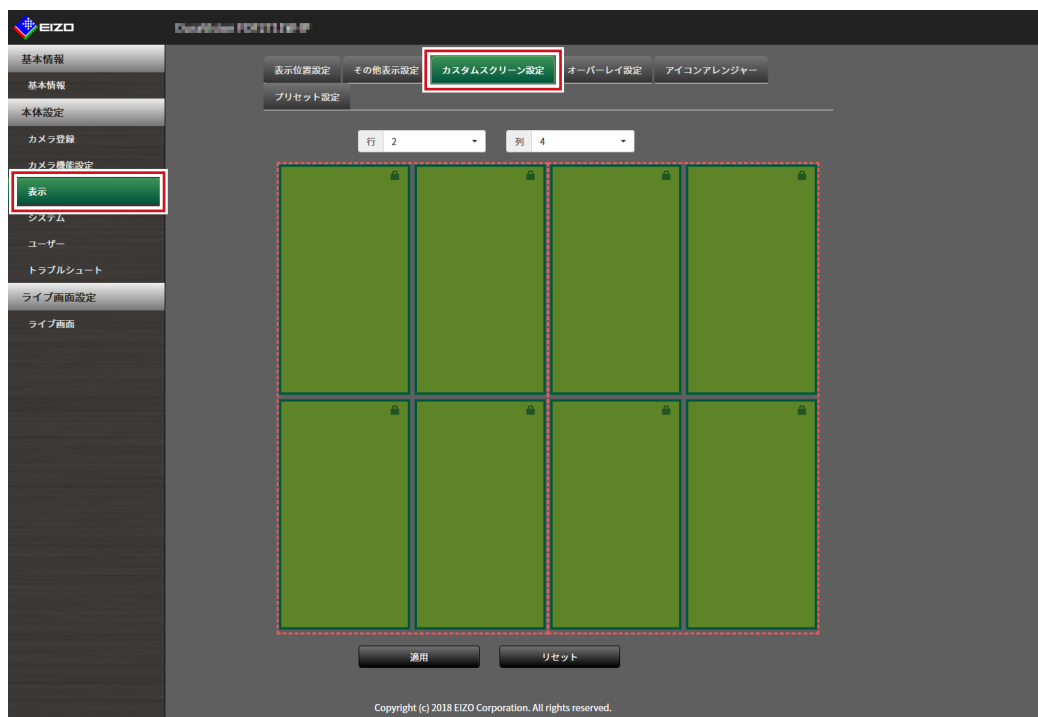
3. 「適用」をクリックします。

6-3. カスタムスクリーンのレイアウトを設定する


ライブ画面の「レイアウト」で「カスタムスクリーン」を選択したときの表示レイアウトの設定をおこないます。

1. 「表示」 > 「カスタムスクリーン設定」を選択します。

「カスタムスクリーン設定」画面が表示されます。



参考

- ・「マルチモニター設定」で「拡張」に設定している場合、各モニターに表示される範囲が赤い点線で示されます。
- ・表示位置枠内の  をクリックすると、任意のカメラ映像の表示位置を固定することができます。ページ切り替えを実行しても、指定したカメラ映像の表示位置は維持されます。この機能は「カスタムスクリーン設定」でのみ使用できます。

2. 「行」および「列」の数をリストボックスから選択します。

選択した行数および列数に応じた画面に変化します。

3. カメラの表示位置を選択し、ドラッグして連結する表示位置へドロップします。

選択した表示位置が連結されます。

4. 「適用」をクリックします。

表示位置の連結が反映されます。「リセット」を選択すると、設定変更中の情報は破棄され、現在の製品の表示設定になります。

参考

- ・連結を解除するには、連結した表示位置をクリックします。または、行および列をリストボックスで変更します。
- ・「アスペクト比モード」で「アスペクト」に設定すると、カメラ表示位置に「フル」または「アスペクト」が表示され、選択するごとに設定が切り替わります。「アスペクト比モード」の設定については、「[6-1. カメラ映像の表示位置を設定する](#)」(P.58)を参照してください。

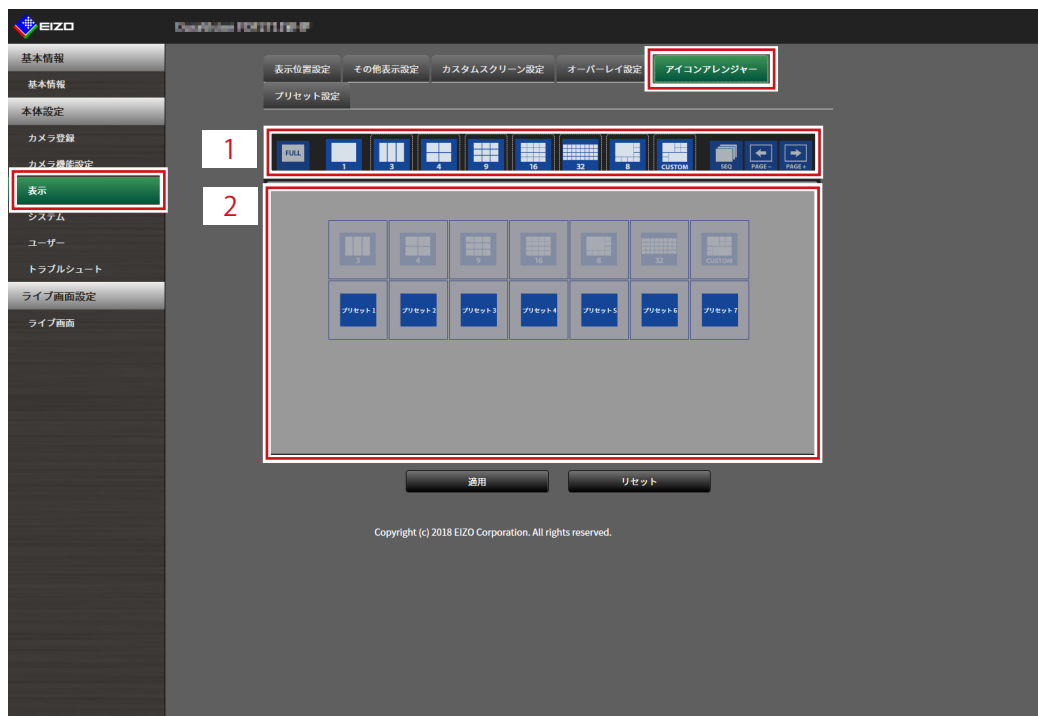
6-4. 表示するレイアウトアイコンを変更する

エンタープライズライセンス

ライブ画面の表示メニューに表示するアイコンを変更できます。

1. 「表示」 > 「アイコンアレンジャー」を選択します。






「アイコンアレンジャー」画面が表示されます。



No.	説明
1	アイコン登録エリア
2	アイコン選択エリア

2. 変更したいアイコンをドラッグし、アイコン登録エリアの表示したい位置にドロップします。

参考

- ・移動先に別のアイコンが登録されている場合は、アイコンの位置が入れ替わります。
- ・表示メニューから削除したい場合は、アイコン登録エリアからアイコン選択エリアにドラッグ&ドロップします。
- ・     の設定は変更できません。

3. 「適用」をクリックします。

6-5. レイアウトのプリセットを設定する

エンタープライズライセンス

ライブ画面の表示レイアウトとカメラの配置をプリセットとして保存できます。

参考

- ・プリセットは7個まで保存できます。

1. 「表示」 > 「プリセット設定」を選択します。
2. 「プリセット番号」リストボックスから設定するプリセット番号を選択します。
3. 「基本設定」タブを選択し、「プリセット名」を入力します。

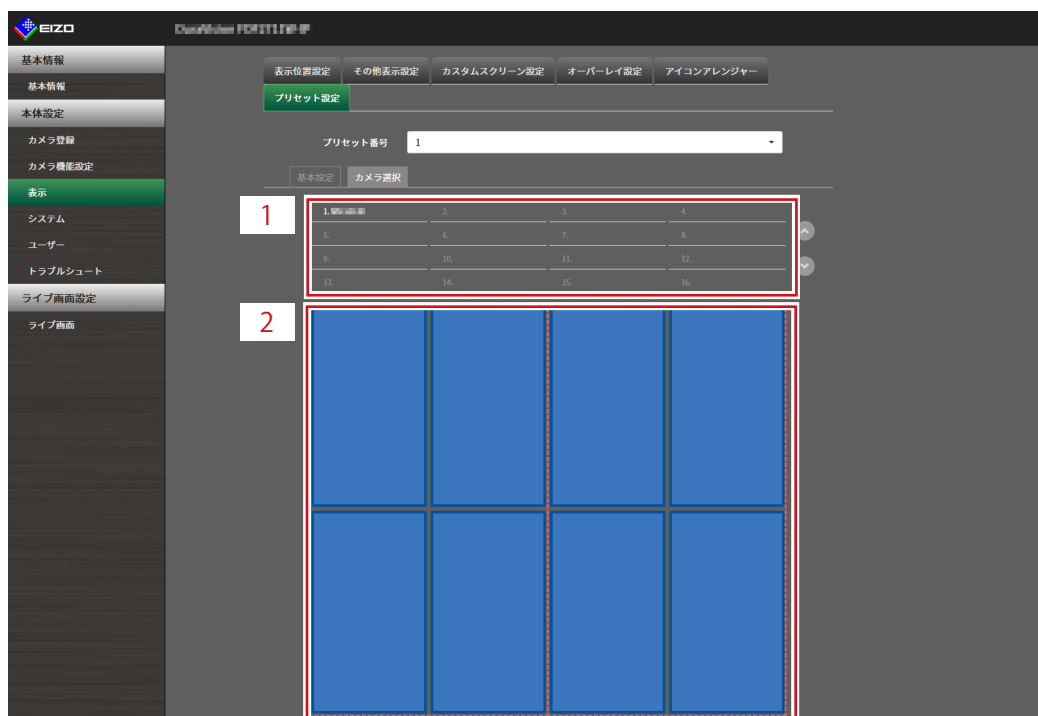
項目	内容	設定範囲
プリセット名	プリセットの名前を入力します。英数字、記号以外の文字を入力する場合は、Webコンソールを使用してください。	任意の文字（16文字まで）

4. 「行」および「列」の数をリストボックスから選択します。
選択した行数および列数に応じた画面に変化します。
5. カメラの表示位置を選択し、ドラッグして連結する表示位置へドロップします。
選択した表示位置が連結されます。

参考

- ・連結を解除するには、連結した表示位置をクリックします。または、行および列をリストボックスで変更します。

6. 「適用」をクリックします。
7. 「カメラ選択」タブを選択します。



No.	説明
1	カメラ選択エリア
2	カメラ配置エリア

8. カメラ選択エリアまたはカメラ配置エリアで設定するカメラをドラッグし、カメラ配置エリアの配置したい位置にドロップします。

参考

- ・カメラ選択エリアで設定するカメラをクリックすると、カメラ配置エリアの空いている位置に配置されます。
 - ・移動先に別のカメラが配置されている場合は、カメラの位置が入れ替わります。
 - ・設定を解除する場合は、カメラ配置エリアからカメラ選択エリアにドラッグ&ドロップします。
-

9. 「適用」をクリックします。

6-6. オーバーレイを設定する

ライブ画面のカメラ映像上にプライバシーマスクやバーチャルラインを表示することができます。

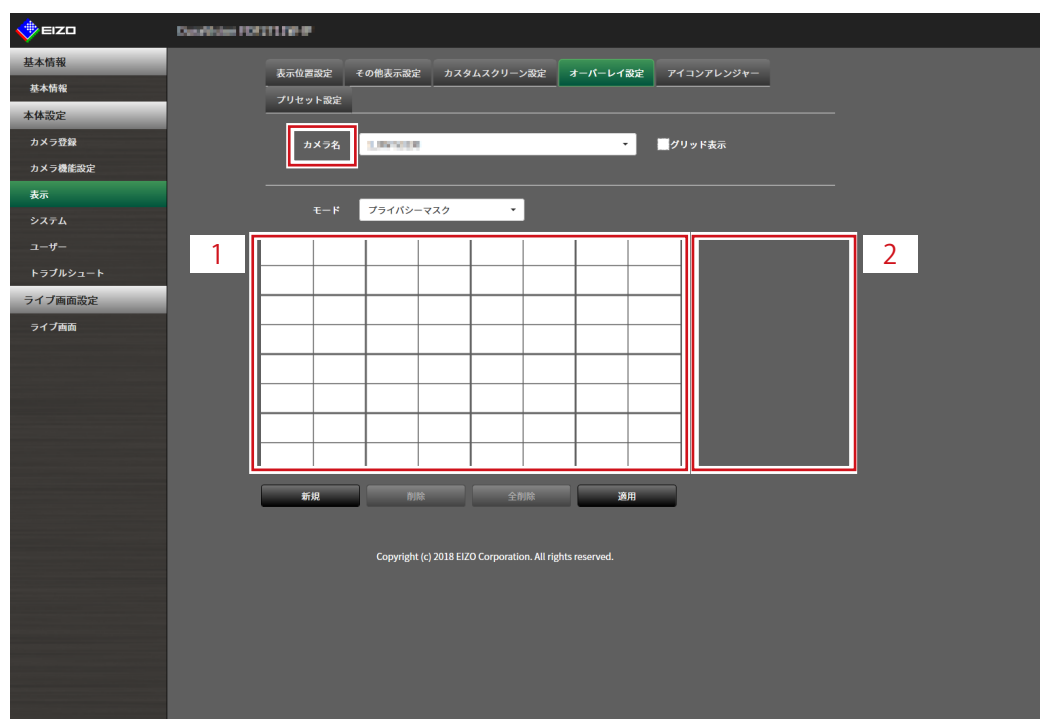
1. 「表示」 > 「オーバーレイ設定」を選択します。

2. 「カメラ名」リストボックスから設定するカメラを選択します。

選択したカメラの設定画面が表示されます。

参考

- Webコンソールの場合、「グリッド表示」をチェックすると、ライブ画面のカメラ映像上にグリッドを表示できます。
- モニターコンソールの場合、描画エリアにカメラのカメラ映像が表示されます。
- ストリーミングゲートウェイ機能で「配信モード」を「リレーモード」に設定している場合、この設定を変更してもシステムに反映されません。



No.	説明
1	描画エリア
2	一覧エリア

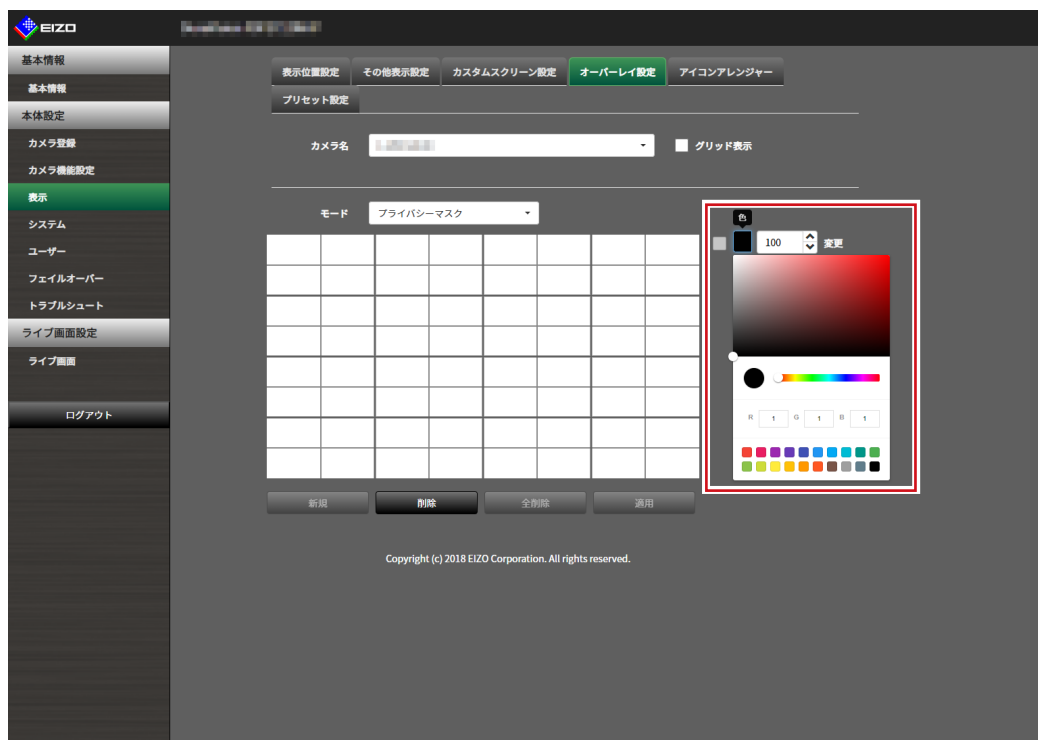
3. 「モード」リストボックスから設定するオーバーレイの種類を選択します。

項目	内容
プライバシーマスク	最大10個までのプライバシーマスクを設定できます。 描画エリアで3点または4点を指定して、多角形のプライバシーマスクを描画します。
バーチャルライン	最大10個までのバーチャルラインを設定できます。 描画エリアで2点～10点を指定して、バーチャルラインを描画します。

4. 「新規」をクリックします。

一覧エリアに新しいオーバーレイ項目が追加されます。

5. オーバーレイの各項目を設定します。



項目	内容	設定範囲
チェックボックス	オーバーレイの表示 / 非表示を切り替えます。	-
色	カラーパレットから色を選択します。	-
非透過率 ^{※1}	非透過率を選択します。	0～100
太さ ^{※2}	線の太さを選択します。	1～12

※1 プライバシーマスクのみの項目です。

※2 バーチャルラインのみの項目です。

6. 描画エリアにオーバーレイを描画します。

7. 「適用」をクリックします。

オーバーレイが描画エリアに表示されます。

参考

- 特定のオーバーレイは、次の手順で削除できます。
 - 描画エリアで削除したいオーバーレイを選択します。
一覧エリアの選択したオーバーレイ項目に「選択」と表示されます。
 - 「削除」をクリックします。
 - 「適用」をクリックします。
- 「全削除」をクリックすると、すべてのオーバーレイが削除されます。

6-7. ライブ画面の表示方法を設定する

ライブ画面のレイアウト変更など表示の設定をおこないます。

1. 「ライブ画面」 > 「ライブ画面設定」 を選択します。
2. 各設定項目をリストボックスから選択します。

項目	内容	設定範囲
全画面表示	ライブ画面にメニューを表示する/しないを設定します。	オン/オフ
レイアウト	ライブ画面に表示するレイアウトを設定します。	1面/3面/4面/9面/ 16面/32面/8面/カスタム スクリーン
ページ	モニターに表示するカメラ映像のページを切り替えます。	1～48
シーケンス	ページシーケンス表示のオンまたはオフを切り替えます。	オン/オフ

3. 「適用」 をクリックします。

6-8. 現在のモニター表示の状態を設定する

1. 「ライブ画面」 > 「システム状態設定」 を選択します。
2. 各項目を設定します。

項目	内容	設定範囲
現在の状態 Webコンソールのみ	状態を選択します。 <ul style="list-style-type: none">・ ライブ画面 モニター画面がライブ画面を表示している状態・ クイック電源オフ 電源がOFFの状態・ 設定画面 モニター画面が設定画面を表示している状態 注意点 <ul style="list-style-type: none">・ 「現在の状態」を「設定画面」に変更することはできません。「設定画面」からその他の状態に変更することはできます。	ライブ画面 / クイック電源オフ / 設定画面
カメラモード エンタープライズライセンス フェイルオーバー機能拡張ライセンス Webコンソールのみ	「フェイルオーバー」を選択するとフェイルオーバー用に設定したカメラを表示できます。 参考 <ul style="list-style-type: none">・ フェイルオーバー機能が有効で、かつ、「現在の状態」が「ライブ画面」の場合、設定が有効になります。	スタンダード / フェイルオーバー
明るさ※1	モニター画面の明るさを調整します。	0～100
音量※1	音量を調整します。	0～30
最新の状態に更新	現在のモニターの状態を取得します。	-

※1 FDF2712W-IP / FDF2312W-IPのみの設定です。

6-9. ライブストリーミングを確認する

エンタープライズライセンス

Webコンソールのみ

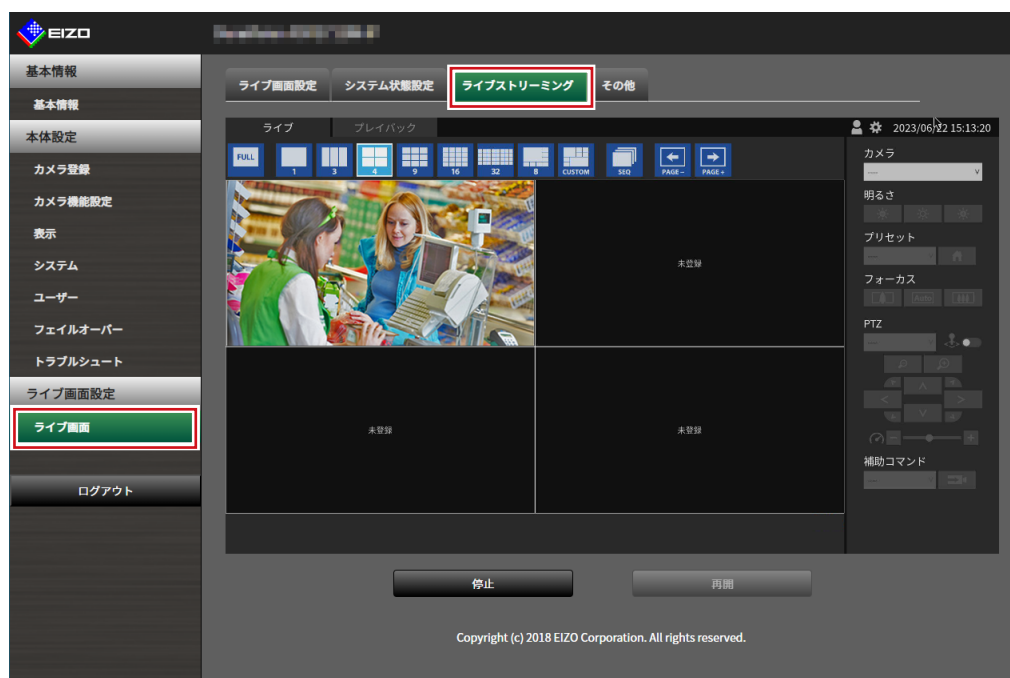
現在のライブ画面の表示をWebブラウザから動画で確認できます。

注意点

- この機能を同時に使用できるユーザーは2人までです。
- この機能の表示フレームレートは1 fpsです。
- WebブラウザがInternet Explorerの場合、この機能は動作しません。
- ストリーミングゲートウェイ機能が有効な場合、この機能でライブ画面の表示を確認することはできません。

1. 「ライブ画面」 > 「ライブストリーミング」を選択します。

ライブ画面が動画で表示されます。「停止」をクリックすると動画が停止し、「再開」をクリックすると動画が再生されます。ライブストリーミングの表示をダブルクリックすると、全画面表示に切り替えることができます。



6-10. ライブ画面のカメラ映像を最新の状態に更新する

Webコンソールのみ

ライブ画面のカメラ映像を最新の状態に更新します。

1. 「ライブ画面」 > 「その他」を選択します。
2. 「ストリームリフレッシュ」の「実行」をクリックします。

6-11.カメラ映像に関する高度な設定をおこなう

Webコンソールのみ

ライブ画面のカメラ映像の表示に関する高度な設定をおこないません。通常は、この設定を変更する必要はありません。

注意点

- ・設定を変更すると正常な表示ができなくなる可能性があります。
- ・ストリーミングゲートウェイ機能で「配信モード」を「リレーモード」に設定している場合、この設定を変更してもシステムに反映されません。

1. 「ライブ画面」>「その他」を選択します。

2. 「アドバンスド設定」の各設定項目をリストボックスから選択します。

項目	内容	設定範囲
Bフレームデコードバッファ ^{※1}	「オン」にすると、Bフレームを含むストリームが表示可能になります。次の現象が発生します。 <ul style="list-style-type: none">・カメラ映像の表示が遅延する。・1 fpsなど低フレームレートの映像が表示できない場合がある。	オン/オフ
非表示カメラ停止 ^{※1}	「オン」にすると、ライブ画面に表示中のカメラとの通信のみを維持し、非表示のカメラとの通信を毎回切断します。カメラとの通信を最低限にできますが、次の現象が発生します。 <ul style="list-style-type: none">・表示が始まるタイミングでカメラとの通信を開始するため、カメラ映像が表示されるまでに時間がかかる。	オン/オフ
タイムスタンプ同期 ^{※1}	「オン」にすると、カメラから受信したタイムスタンプに従ってライブストリーミングを表示します。表示のカクつきが改善される場合がありますが、次の現象が発生します。 <ul style="list-style-type: none">・バッファリング時間増加により、カメラ映像の表示が遅延する。・CPU負荷増加により、表示できるフレームレートが低下するなどパフォーマンスが低下する。	オン/オフ
通信状態表示 ^{※1}	「オン」にすると、データ受信やネットワーク状況を画面右上に表示する丸の色で確認できます。 <ul style="list-style-type: none">・黒色 初期状態・赤色 パケットロス検知・黄色 一定時間パケット受信なし・灰色 高負荷によるフレームレート低下・緑色 30フレーム以上正常受信	オン/オフ

※1 初期設定は「オフ」です。

3. 「適用」をクリックします。

第7章 ユーザーアカウントの管理

システムにアクセスするユーザーアカウント（ユーザー名、ユーザーレベル、パスワード）を登録、変更、削除したり、自動ログインの設定をおこなったりします。

注意点

- ユーザーアカウントは10名まで登録できます。10名を超えると、新規にユーザー情報を登録することはできません。
- 登録済みユーザーアカウントと同じユーザー名は登録できません。
- ユーザーレベルが「ADMIN」のユーザーを1名以上登録する必要があります。

7-1. ユーザーアカウントを登録する

1. 「ユーザー」 > 「ローカルユーザー設定」を選択します。

2. 「追加」をクリックします。

ユーザーアカウントを設定するダイアログボックスが表示されます。

3. ユーザーアカウントを設定します。

項目	説明
ユーザー名	ユーザー名を入力します。 ユーザー名は以下の条件を満たしてください。 <ul style="list-style-type: none">• 8文字以上、16文字以下• 英数記号文字のみ• 文字 # & : / < > \ を含まない 以下のユーザー名は設定できません。 <ul style="list-style-type: none">• 「.」、 「..」、 「auto-login」
ユーザーレベル	「LIVE」、「CAMERA CONTROL」および「ADMIN」を選択します。 それぞれのレベルでこの製品を操作できる範囲が異なります。詳細は「 1-2. ユーザーレベル 」(P.6)を参照してください。
パスワード	パスワードを指定します。 パスワードは以下の条件を満たしてください。 <ul style="list-style-type: none">• 8文字以上、16文字以下• 1文字以上の数字• 1文字以上の英大文字および英小文字• 文字 \ を含まない
パスワード (確認)	確認のために、同じパスワードを再度入力します。

4. 「OK」をクリックします。

7-2. ユーザーアカウントを変更する

注意点

- ・「ユーザーアカウント」で「LDAP」を選択した場合はこの機能を使用できません。詳細は、「[7-5. LDAP設定をおこなう](#)」(P.72)を参照してください。

1. 「ユーザー」>「ローカルユーザー設定」を選択します。
2. 変更するユーザーを「ユーザーリスト」から選択します。
3. 「変更」をクリックします。

ユーザー情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

ユーザー名 admin

ユーザーレベル ADMIN

パスワード

パスワード (確認)

ユーザー名は以下の条件を満たすように設定してください。

- ・ 1文字以上、16文字以下
- ・ 英数字のみ
- ・ 文字 # & " < > \ を含まない

パスワードは以下の条件を満たすように設定してください。

- ・ 8文字以上、16文字以下
- ・ 1文字以上の数字
- ・ 1文字以上の英大文字および英小文字
- ・ 文字 \ を含まない

OK キャンセル

4. ユーザー情報を変更します。
5. 「OK」をクリックします。

7-3. ユーザーアカウントを削除する

注意点

- ・「ユーザーアカウント」で「LDAP」を選択した場合はこの機能を使用できません。詳細は、「[7-5. LDAP設定をおこなう](#)」(P.72)を参照してください。

1. 「ユーザー」>「ローカルユーザー設定」を選択します。
2. 削除するユーザーを「ユーザーリスト」から選択します。
3. 「削除」をクリックします。
「ユーザーXXXを削除してもよろしいですか？」の確認ダイアログボックスが表示されます。
4. 「OK」をクリックします。

7-4. 自動ログインの設定をおこなう

注意点

- ・「ユーザーアカウント」で「LDAP」を選択した場合はこの機能を使用できません。詳細は、「7-5. LDAP設定をおこなう」(P.72)を参照してください。
 - ・自動ログインの設定をおこなうと、悪意を持った第三者による不正操作が簡単にできるようになります。設定はセキュリティが十分に確保されている環境での使用に限定してください。
-

1. 「ユーザー」>「ローカルユーザー設定」を選択します。
2. 自動ログインを設定するユーザーを「自動ログイン」リストボックスから選択します。
3. 「適用」をクリックします。

7-5. LDAP設定をおこなう

エンタープライズライセンス

ユーザー管理にディレクトリサービス (LDAP) をお使いの場合、LDAPサーバー上のユーザーアカウントを利用してこの製品にログインできます。

注意点

- ・「ユーザーアカウント」を「LDAP」に設定すると、ローカルユーザーによるログインはできなくなります。
 - ・WebブラウザによるアクセスはユーザーレベルがADMINのアカウントのみ可能です。
 - ・LDAP設定を誤るとこの製品にログインできなくなります。このためLDAP設定を適用する前に、ログインテストでユーザーレベルがADMINのユーザーアカウントでログインできることを確認してください。
-

1. 「ユーザー」>「LDAP設定」を選択します。
 2. 「ユーザーアカウント」の「タイプ」リストボックスから「LDAP」を選択します。
-

参考

- ・「ログインダイアログでアカウントタイプを選択する」をチェックすると、モニターコンソールでログインする際にアカウントタイプを選択できます。
-

3. LDAP設定をおこないます。

LDAP設定

項目	内容	設定範囲
サーバーアドレス	LDAPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。	英数字、記号 (255文字まで)
ポート	ポート番号を入力します。	1 ~ 65535 ^{※1}
ベースDN	検索するブランチの識別名を入力します。 例：ou=ldap,dc=example,dc=com	英数字、記号 (255文字まで)
バインドDN	ベースDNへのアクセス権を持つユーザー名を入力します。 例：cn=binduser,ou=ldap,dc=example,dc=com	英数字、記号 (255文字まで)
バインドパスワード	バインドDNのパスワードを入力します。	英数字、記号 (255文字まで)
ユーザー名の属性	ログインしたいユーザーアカウント名の属性を入力します。 例：cn	英数字、記号 (255文字まで)
SSL	SSL通信 (LDAPS) をおこなう場合にチェックします。	-
証明書の検証	証明書の検証をおこなう場合にチェックします。 注意点 ・ 証明書の検証を行う場合、LDAPサーバーのルート証明書が、この製品の「証明書設定」の「ルート証明書」に登録されている必要があります。	-

※1 LDAPの場合は389、LDAPSの場合は636が標準的なポート番号です。

検索フィルター設定

項目	内容	設定範囲
ADMINユーザーフィルター	ADMINアクセス権のユーザーのフィルターを設定します。 例： (memberOf=cn=admin,ou=ldap,dc=example,dc=com)	英数字、記号 (255文字まで)
CAMERA CONTROLユーザーフィルター	カメラ制御アクセス権を有効にする場合にチェックし、フィルターを設定します。	-
LIVEユーザーフィルター	LIVEアクセス権を有効にする場合にチェックし、フィルターを設定します。	-

4. 「ログインテスト」をおこないます。

「ユーザー名」と「パスワード」を入力し、「テスト」をクリックします。
ログインテストが実行されます。

5. 「適用」をクリックします。

第8章 参考

8-1. オプションアーム取り付け方法（FDF2712W-IP / FDF2312W-IP）

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイト（www.eizo.co.jp）を参照してください。

注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。取り付けには本体部分とスタンドを固定しているねじをご使用ください。
 - 取り付け部のねじ穴間隔：100 mm × 100 mm
 - プレート部の厚み：2.6 mm
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- アームまたはスタンドを使用する場合は、次の範囲（チルト角）で使用してください。
 - 上：45°、下：45°
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重いため、落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 定期的になじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因となります。

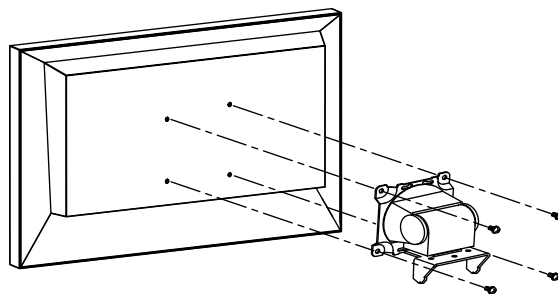
1. 液晶パネル面が傷つかないように、安定した場所にやわらかい布などを敷いた上に、液晶パネル面を下に向けて置きます。

2. スタンド部分を取り外します。

別途ドライバを準備してください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ4箇所を取り外します。

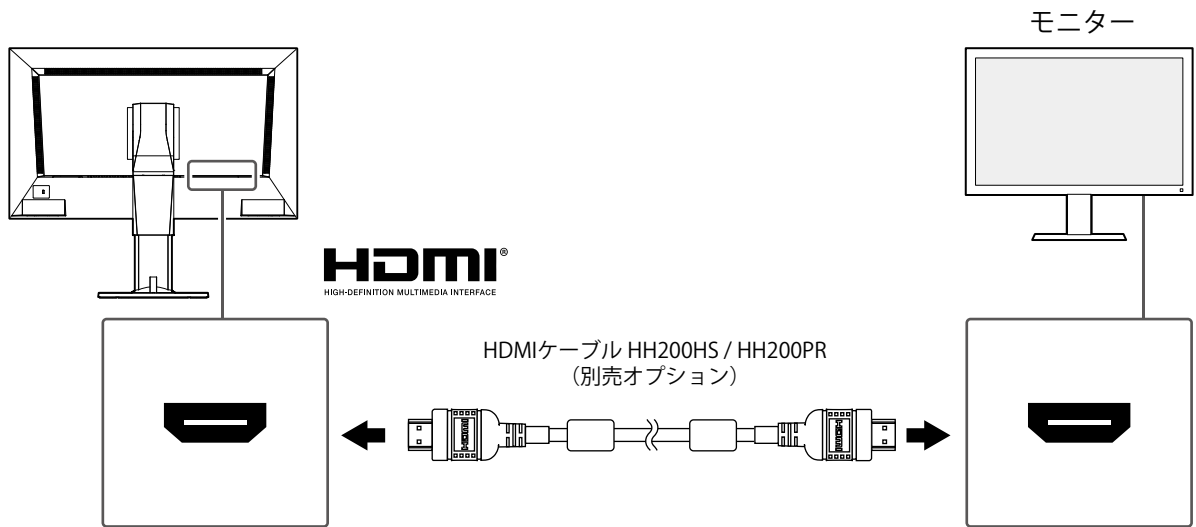
3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。

取り付けには、手順2で取り外したねじを使用します。



8-2. サブモニターを接続する (FDF2712W-IP / FDF2312W-IP)

HDMI®入力端子を搭載したモニターを接続し、サブモニターとして使用（複製または拡張表示）できます。



8-3. 仕様

● FDF2712W-IP

液晶パネル	種類	VA	
	バックライト	LED	
	サイズ	27.0型 (69 cm)	
	解像度	1920ドット × 1080ライン	
	表示面積 (横×縦)	597.6 mm × 336.15 mm	
	画素ピッチ	0.311 mm	
	表示色	8 bitカラー	1677万色
	視野角 (水平/垂直、標準値)	89° / 89°	
	コントラスト比 (標準値)	3000 : 1	
	応答速度 (標準値)	中間階調域 : 11 ms	
	LAN	規格	RJ-45 (1000BASE-T, 100BASE-TX)
通信速度		1000 Mbps、100 Mbps	
デコード処理 ^{※1}	動画圧縮形式	H.265、H.264、MJPEG	
	最大解像度	H.265、H.264	3840×2160 ^{※2}
		MJPEG	640×480
	最大フレームレート	60 fps ^{※3}	
	最大ビットレート	8192 kbps	
	カメラ表示台数	最大32台	
	対応プロトコル	DHCP、DNS、HTTP、HTTPS、IEEE802.1X、LDAP、LDAPS、NTP、RTP、RTSP、SNMP、SRT、SRTP	
対応ストリーミングプロトコル	RTP (H.265、H.264、MJPEG、MPEG2-TS)、SRT (H.265、H.264)、SRTP (H.265、H.264)、UDP (MPEG2-TS)		
出力信号 (HDMI)	出力端子	HDMI	
	伝送方式	TMDS (Single Link)	
USB	ポート	ダウンストリーム×2	
	規格	USB Specification Revision 2.0 準拠	
	通信速度	480 Mbps (ハイスピード)、12 Mbps (フルスピード)、1.5 Mbps (ロースピード)	
	供給電源	最大500 mA / 1ポート	
音声	スピーカー	1 W+1 W	
	出力端子 ^{※4}	HDMI×1 (映像信号と共用) ステレオミニジャック×1	
電源	電源入力	100~240 V、50/60 Hz、0.60 A~0.30 A	
	最大消費電力	59 W以下	
	待機時消費電力	16 W以下	
機構	外観寸法	640 mm × 404.5~554.5 mm × 245 mm (幅×高さ×奥行) (チルト角度0°時)	
	外観寸法 (モニター部)	640 mm × 379 mm × 65 mm (幅×高さ×奥行)	
	質量	約9.9 kg以下	
	質量 (モニター部)	約7.1 kg以下	
	チルト	上35°、下-5°	
動作環境条件	温度	0 °C ~ 40 °C	
	湿度	20 % ~ 80 % R.H. (結露なきこと)	
	気圧	540 hPa ~ 1060 hPa	
輸送/保存環境条件	温度	-20 °C ~ 60 °C	
	湿度	10 % ~ 90 % R.H. (結露なきこと)	
	気圧	200 hPa ~ 1060 hPa	

-
- ※1 インターレース方式の映像ストリーミングは表示できません。
 - ※2 最大解像度を超えると、画像は表示されません。カメラの解像度およびビットレートを下げてください。
 - ※3 最大フレームレートは解像度によって異なります（「8-4. デコード性能」(P.80) 参照）。
 - ※4 アラート受信によるビープ音の出力が可能です。

● FDF2312W-IP

液晶パネル	種類	IPS	
	バックライト	LED	
	サイズ	23.0型 (58.4 cm)	
	解像度	1920ドット × 1080ライン	
	表示面積 (横×縦)	509.2 mm × 286.4 mm	
	画素ピッチ	0.265 mm	
	表示色	8 bitカラー	1677万色
	視野角 (水平/垂直、標準値)	89° / 89°	
	コントラスト比 (標準値)	1000 : 1	
	応答速度 (標準値)	中間階調域 : 8 ms	
LAN	規格	RJ-45 (1000BASE-T, 100BASE-TX)	
	通信速度	1000 Mbps、100 Mbps	
デコード処理 ^{※1}	動画圧縮形式	H.265、H.264、MJPEG	
	最大解像度	H.265、H.264	3840×2160 ^{※2}
		MJPEG	640×480
	最大フレームレート	60 fps ^{※3}	
	最大ビットレート	8192 kbps	
	カメラ表示台数	最大16台 (エンタープライズライセンスを登録した場合は最大32台)	
	対応プロトコル	DHCP、DNS、HTTP、HTTPS、IEEE802.1X、LDAP、LDAPS、NTP、RTP、RTSP、SNMP、SRT、SRTP	
対応ストリーミングプロトコル	RTP (H.265、H.264、MJPEG、MPEG2-TS)、SRT (H.265、H.264)、SRTP (H.265、H.264)、UDP (MPEG2-TS)		
出力信号 (HDMI)	出力端子	HDMI	
	伝送方式	TMDS (Single Link)	
USB	ポート	ダウンストリーム×2	
	規格	USB Specification Revision 2.0 準拠	
	通信速度	480 Mbps (ハイスピード)、12 Mbps (フルスピード)、1.5 Mbps (ロースピード)	
	供給電源	最大500 mA / 1ポート	
音声	スピーカー	1 W+1 W	
	出力端子 ^{※4}	HDMI×1 (映像信号と共用) ステレオミニジャック×1	
電源	電源入力	100~240 V、50/60 Hz、0.75 A~0.45 A	
	最大消費電力	49 W以下	
	待機時消費電力	4.5 W以下	
機構	外観寸法	547.2 mm × 411.3 mm × 157.0 mm (幅×高さ×奥行) (チルト角度0°時)	
	外観寸法 (モニター部)	547.2 mm × 324.4 mm × 59.5 mm (幅×高さ×奥行)	
	質量	約6.6 kg以下	
	質量 (モニター部)	約4.2 kg以下	
	チルト	上30°、下0°	
動作環境条件	温度	0 °C ~ 40 °C	
	湿度	20 % ~ 80 % R.H. (結露なきこと)	
	気圧	540 hPa ~ 1060 hPa	
輸送/保存環境条件	温度	-20 °C ~ 60 °C	
	湿度	10 % ~ 90 % R.H. (結露なきこと)	
	気圧	200 hPa ~ 1060 hPa	

- ※1 インターレース方式の映像ストリーミングは表示できません。
 ※2 最大解像度を超えると、画像は表示されません。カメラの解像度およびビットレートを下げてください。
 ※3 最大フレームレートは解像度によって異なります（「8-4. デコード性能」(P.80) 参照）。
 ※4 アラート受信によるビープ音の出力が可能です。

● DX0212-IP

LAN	規格	RJ-45 (1000BASE-T, 100BASE-TX)	
	通信速度	1000 Mbps、100 Mbps	
デコード処理※1	動画圧縮形式	H.265、H.264、MJPEG	
	最大解像度	H.265、H.264	3840×2160※2
		MJPEG	640×480
	最大フレームレート	60 fps※3	
	最大ビットレート	8192 kbps	
	カメラ表示台数	最大32台	
	対応プロトコル	DHCP、DNS、HTTP、HTTPS、IEEE802.1X、LDAP、LDAPS、NTP、RTP、RTSP、SNMP、SRT、SRTP	
	対応ストリーミングプロトコル	RTP (H.265、H.264、MJPEG、MPEG2-TS)、SRT (H.265、H.264)、SRTP (H.265、H.264)、UDP (MPEG2-TS)	
出力信号 (HDMI)	出力端子	HDMI×2	
	伝送方式	TMDS (Single Link)	
USB	ポート	ダウンストリーム×1	
	規格	USB Specification Revision 2.0 準拠	
	通信速度	480 Mbps (ハイスピード)、12 Mbps (フルスピード)、1.5 Mbps (ロースピード)	
	供給電源	最大500 mA	
音声	出力端子※4	HDMI×2 (映像信号と共用) ステレオミニジャック×1	
電源	電源入力	DC 12 V ±10 %、2.0 A (DC入力)、IEEE 802.3at (PoE+入力)	
	最大消費電力	21.5 W以下 (DC入力)、25.5 W以下 (PoE+入力)	
機構	外観寸法	165 mm×44.2 mm×130 mm (幅×高さ×奥行)	
	質量	約770 g	
動作環境条件	温度	0 °C ~ 40 °C	
	湿度	20 % ~ 80 % R.H. (結露なきこと)	
	気圧	540 hPa ~ 1060 hPa	
輸送 / 保存環境条件	温度	-20 °C ~ 60 °C	
	湿度	10 % ~ 90 % R.H. (結露なきこと)	
	気圧	200 hPa ~ 1060 hPa	

- ※1 インターレース方式の映像ストリーミングは表示できません。
 ※2 最大解像度を超えると、画像は表示されません。カメラの解像度およびビットレートを下げてください。
 ※3 最大フレームレートは解像度によって異なります（「8-4. デコード性能」(P.80)）。
 ※4 アラート受信によるビープ音の出力が可能です。

8-4. デコード性能

参考

- ・モニターの解像度とレイアウトに応じて、映像は製品内で自動的に拡大・縮小されます。
- ・値は参考値です。カメラの設定やネットワークの設置環境などによりデコード性能を超えると、映像が正しく表示されません。映像が正しく表示されない場合は、カメラの解像度およびビットレートを下げてください。カメラの設定は使用するカメラの取扱説明書に従ってください。
- ・「プロトコル」が「ONVIF」の場合のみ、MJPEGに対応可能です。

● FDF2712W-IP / FDF2312W-IP

デコード性能

H.265 / H.264 (「ビットレート」設定が「4096 kbps」の場合)

1面レイアウト	3840×2160 / 30 fps、1920×1080 / 60 fps、1280×720 / 60 fps
4面レイアウト	3840×2160 / 20 fps、1920×1080 / 60 fps、1280×720 / 60 fps
9面レイアウト	1920×1080 / 30 fps、1280×720 / 50 fps、640×480 / 60 fps
12面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 40 fps、640×480 / 60 fps
16面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 30 fps、640×480 / 50 fps
32面レイアウト	1280×720 / 15 fps、640×480 / 30 fps

MJPEG

640 × 480 / 30 fps

● DX0212-IP

デコード性能

H.265 / H.264 (「ビットレート」設定が「4096 kbps」の場合)

映像表示モニターの解像度が1920×1080、60 Hzの場合

1面レイアウト	3840×2160 / 30 fps、1920×1080 / 60 fps、1280×720 / 60 fps
4面レイアウト	3840×2160 / 20 fps、1920×1080 / 60 fps、1280×720 / 60 fps
9面レイアウト	1920×1080 / 30 fps、1280×720 / 50 fps、640×480 / 60 fps
12面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 40 fps、640×480 / 60 fps
16面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 30 fps、640×480 / 50 fps
32面レイアウト	1280×720 / 15 fps、640×480 / 30 fps

映像表示モニターの解像度が3840×2160、60 Hzの場合

1面レイアウト	3840×2160 / 30 fps、1920×1080 / 30 fps、1280×720 / 30 fps
4面レイアウト	3840×2160 / 20 fps、1920×1080 / 30 fps、1280×720 / 30 fps
9面レイアウト	1920×1080 / 25 fps、1280×720 / 30 fps、640×480 / 30 fps
12面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 25 fps、640×480 / 30 fps
16面レイアウト	1920×1080 / 20 fps、1280×720 / 25 fps、640×480 / 30 fps
32面レイアウト	1280×720 / 15 fps、640×480 / 20 fps

MJPEG

640 × 480 / 30 fps

出力解像度

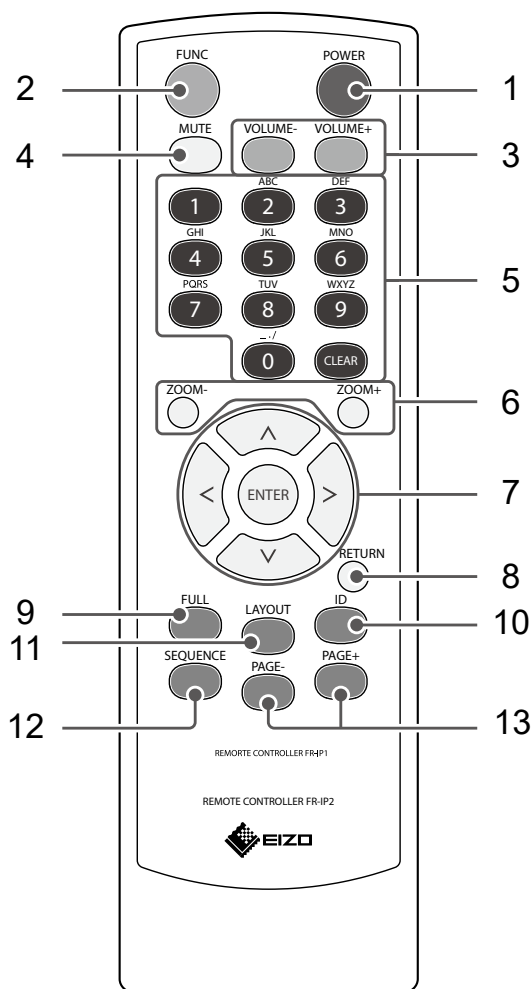
映像表示用モニターへの出力解像度は次のとおりです。

解像度	垂直走査周波数 [Hz]	ドットクロック [MHz]
1920×1080	60	594.0 (最大)
1920×1080	59.94	
1920×1080	50	
2560×1440	59.951	
3840×2160	60	
3840×2160	59.94	
3840×2160	50	
3840×2160	30	
3840×2160	29.97	
3840×2160	25	

注意点

- 次の条件をすべて満たす場合、リフレッシュレートは最大30Hzに制限されます。
 - 2台のモニターを接続している
 - 「解像度」が「3840x2160」
 - 「マルチモニター設定」が「拡張」
 - 「画面の向き」が「縦」

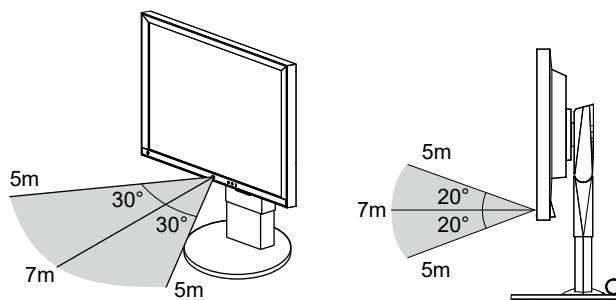
8-5. リモコン仕様



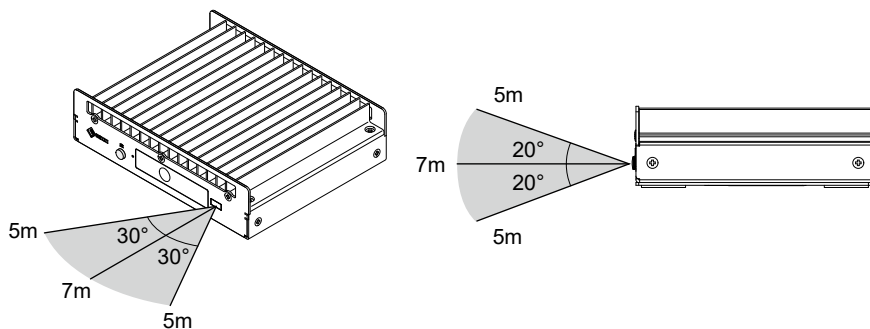
名称	詳細
1. POWER	電源のオン/オフを切り替えます。
2. FUNC	カメラがパン/チルト/ズーム機能対応の場合、ライブ画面の「ズーム」ボタンが選択されます。
3. VOLUME-/VOLUME+	音量を調整します。
4. MUTE	音声を一時的に消します。
5. 数字ボタン (0~9) / CLEAR	数字を入力するときに使用します。 注意点 ・アルファベットなどの文字入力には対応していません。
6. ZOOM-/ZOOM+	カメラの表示倍率を調節します。
7. ^/∨/</>, ENTER	ライブ画面内の項目の移動およびカメラの操作に使用します。
8. RETURN	メニュー操作時、1つ上の階層に戻ります。
9. FULL	ライブ画面のメニューを表示/非表示します。
10. ID	リモコンのID表示設定がオンの場合、ライブ画面にリモコンおよび本体に登録されているIDを表示します。
11. LAYOUT	ライブ画面のレイアウトを変更します。 押すたびにレイアウトが切り替わります。
12. SEQUENCE	カメラ画像のシーケンス表示のオンまたはオフを切り替えます。
13. PAGE-/PAGE+	ライブ画面に表示するカメラ画像のページを切り替えます。

注意点

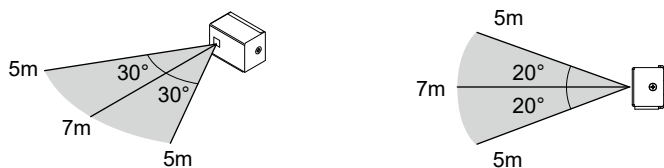
- リモコンは次の図の範囲内で使用してください。
FDF2712W-IP / FDF2312W-IP



DX0212-IP



リモコン受光ユニット



- この製品を複数台設置する場合は、リモコン操作が相互に影響しないよう間隔を空けてください。
- リモコンのID設定をおこなうことで、任意の製品を操作することが可能になります。初期値では、リモコンの信号を受信したすべての製品が同じ動作をします。
リモコンのID設定については、「[4-15. リモコンのIDを設定する](#)」(P.33)を参照してください。
- リモコンでは設定画面の操作はできません。

8-6. カメラ登録用CSVファイル形式

「カメラ情報の読み込み」（「5-5. カメラの情報を読み込む」（P.54）参照）で、読み込み可能なCSVファイルは次の条件を満たす必要があります。

- カンマ区切りのCSVファイル
- 1行目は項目行
- 項目行に項目がすべて揃っている
- 各項目の値が設定範囲内
- CSVファイルの文字コードはUTF-8

項目行の名前	設定範囲				
	Panasonic/i-PRO	AXIS	ONVIF	DirectUri	SRT
CameraName	(任意) 任意の文字（100文字まで）				
Protocol	Panasonic	AXIS	ONVIF ^{※1}	DirectUri	SRT ^{※2}
IPAddress	(必須) 0.0.0.1 ~ 255.255.255.254				
Port ^{※3}	(必須) 1 ~ 65535				
UserName	(任意) 英数字、記号（32文字まで）				
PassWord	(任意) 英数字、記号（32文字まで）				
Uri	不要			(必須) 英数字（1023文字まで）	
Comm. Method	udp	udp / rtsp / srtp ^{※4}	udp / rtsp	udp / rtsp / m2ts_udp	不要
Enable SSL	off / on			不要	
Certificate Validation	off / on			不要	
Passphrase	不要				(任意) 英数字、記号（79文字まで）
Latency	不要				(必須) 20 ms ~ 8000 ms
TransmissionMode	不要	unicast / multicast	unicast / multicast	unicast / multicast / ssm	不要

※1 「プロトコル」が「ONVIF」の場合、「メディアタイプ」は「Media1」になります。

※2 「プロトコル」が「SRT」の場合、この製品に「SRT」機能拡張ライセンスが登録されていないときは、カメラ登録時にエラーが発生します。

※3 一般的なポート番号は、「プロトコル」が「Panasonic/i-PRO」、「AXIS」、「ONVIF」の場合は「80」（SSLが有効な場合は「443」）、「プロトコル」が「DirectUri」かつ「URI」がRTSPストリームURIの場合は「554」です。

※4 「接続方式」が「srtp」の場合、次の条件を満たす必要があります。

- この製品にエンタープライズライセンスが登録されている
- 「プロトコル」が「AXIS」
- 「SSL」が「on」

CSVファイルのサンプル

```
CameraName,Protocol,IPAddress,Port,UserName,PassWord,Uri,Comm. Method,Enable SSL,Certificate Validation
,Latency,Passphrase,TransmissionMode
camera1,panasonic,192.168.0.101,80,user,pass,,udp,off,off,,,
camera2,axis,192.168.0.102,80,user,pass,,srtp,on,off,,,unicast
camera3,onvif,192.168.0.103,80,user,pass,,udp,off,off,,,unicast
camera4,srt,192.168.0.104,5000,user,pass,srt://192.168.0.104,,off,off,125,12345678,
camera5,directUri,192.168.0.105,554,user,pass,rtsp://192.168.0.105/stream1,udp,off,off,,,unicast
camera6,directUri,224.0.0.1,10002,user,pass,,m2ts_udp,off,off,,,multicast
```

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Incの商標または登録商標です。

DisplayPort、DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAは、Video Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



SuperSpeed USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。



USB Type-C、USB-CはUSB Implementers Forum, Incの登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Microsoft Edge、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe（アドビ）の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の商標です。

ONVIFはONVIF Inc.の商標です。

AXIS、VAPIXはAxis ABのスウェーデンおよびその他の国における登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i-Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、SafeGuard、Screen Administrator、Screen InStyle、ScreenCleaner、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

本書に使用の一部の画像は、マイクロソフトの許諾を得て使用しています。

この製品にはオープンソースソフトウェアが含まれています。

オープンソースソフトウェアのうちGPL (GNU GENERAL PUBLIC LICENSE) の条件にて利用許諾されるものが含まれる場合には、GPLの利用許諾条件に従い、当社は次のコンタクト情報宛てにコンタクトしてきた個人、団体に対し、お買い上げ後、少なくとも3年間、実費にてGPLソフトウェアに対応するソースコードを、CD-ROMなどの媒体により頒布いたします。

また、LGPL (GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE) の条件にて利用許諾されるものが含まれる場合についても、上述のGPLの場合と同様の手続きにてソースコードを頒布いたします。

コンタクト情報

www.eizo.co.jp/support/product/contact.html

GPL/LGPLその他に基づきライセンスされるオープンソースソフトウェアを除き、この製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、この製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

本製品は下記URLに掲載されている特許の1つ以上の請求項の権利範囲に含まれています。

patentlist.hevcadvance.com

本製品には、OpenSSL Toolkit (<https://www.openssl.org/>) で使用するためにOpenSSLプロジェクトにより開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Independent JPEG Groupによって作成されたソフトウェアが含まれています。

